

---

行田市

---

# 築道下遺跡Ⅳ

---

行田南部工業団地造成事業関係埋蔵文化財発掘調査報告

—V—

〈第2分冊〉

2000

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

# 目次

## (第1分冊)

序	
例言	
凡例	
I 発掘調査の概要	1
1. 調査に至るまでの経過	1
2. 発掘・整理報告書作成の経過	2
3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	5
II 遺跡の立地と環境	7
III 遺跡の概要	11
IV E区の遺構と遺物	13
1. 住居跡	20
2. 掘立柱建物跡	22
3. 土壌	25
4. 井戸跡	30
5. 溝跡	36
6. その他の遺構と遺物	45
V F区の遺構と遺物	50
1. 住居跡	73

## (第2分冊)

2. 掘立柱建物跡	261
3. 櫓列跡	347
4. 土壌	352
5. 井戸跡	426
6. 溝跡	472
7. その他の遺構と遺物	499

## (第3分冊)

VI G区の遺構と遺物	513
1. 住居跡	517
2. 掘立柱建物跡	531
3. 土壌	539
4. 井戸跡	555
5. 溝跡	560
6. その他の遺構と遺物	568
VII H区の遺構と遺物	575
1. 住居跡	577
2. 掘立柱建物跡	580
3. 櫓列跡	587
4. 土壌	588
5. 井戸跡	592
6. 溝跡	595
7. その他の遺物	597
VIII まとめ	598
1. 集落の展開	598
2. 掘立柱建物跡の検討	611
3. 胎土分析	633
4. 土壌分析	629
5. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
6. 胎土分析	633
7. 土壌分析	629
8. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
9. 胎土分析	633
10. 土壌分析	629
11. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
12. 胎土分析	633
13. 土壌分析	629
14. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
15. 胎土分析	633
16. 土壌分析	629
17. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
18. 胎土分析	633
19. 土壌分析	629
20. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
21. 胎土分析	633
22. 土壌分析	629
23. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
24. 胎土分析	633
25. 土壌分析	629
26. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
27. 胎土分析	633
28. 土壌分析	629
29. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
30. 胎土分析	633
31. 土壌分析	629
32. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
33. 胎土分析	633
34. 土壌分析	629
35. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
36. 胎土分析	633
37. 土壌分析	629
38. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
39. 胎土分析	633
40. 土壌分析	629
41. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
42. 胎土分析	633
43. 土壌分析	629
44. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
45. 胎土分析	633
46. 土壌分析	629
47. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
48. 胎土分析	633
49. 土壌分析	629
50. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
51. 胎土分析	633
52. 土壌分析	629
53. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
54. 胎土分析	633
55. 土壌分析	629
56. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
57. 胎土分析	633
58. 土壌分析	629
59. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
60. 胎土分析	633
61. 土壌分析	629
62. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
63. 胎土分析	633
64. 土壌分析	629
65. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
66. 胎土分析	633
67. 土壌分析	629
68. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
69. 胎土分析	633
70. 土壌分析	629
71. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
72. 胎土分析	633
73. 土壌分析	629
74. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
75. 胎土分析	633
76. 土壌分析	629
77. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
78. 胎土分析	633
79. 土壌分析	629
80. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
81. 胎土分析	633
82. 土壌分析	629
83. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
84. 胎土分析	633
85. 土壌分析	629
86. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
87. 胎土分析	633
88. 土壌分析	629
89. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
90. 胎土分析	633
91. 土壌分析	629
92. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
93. 胎土分析	633
94. 土壌分析	629
95. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
96. 胎土分析	633
97. 土壌分析	629
98. 掘立柱建物跡出土木材樹種同定	626
99. 胎土分析	633
100. 土壌分析	629

## 插图目录

第265图	F区第1号孤立柱建物跡·出土遺物	…261	第300图	F区第34号孤立柱建物跡出土遺物	…295
第266图	F区第2号孤立柱建物跡·出土遺物	…262	第301图	F区第35号孤立柱建物跡出土遺物	…295
第267图	F区第3号孤立柱建物跡	…263	第302图	F区第35号孤立柱建物跡	…296
第268图	F区第4号孤立柱建物跡	…263	第303图	F区第36号孤立柱建物跡	…297
第269图	F区第5号孤立柱建物跡·出土遺物	…264	第304图	F区第37号孤立柱建物跡	…298
第270图	F区第6号孤立柱建物跡·出土遺物	…265	第305图	F区第38号孤立柱建物跡	…299
第271图	F区第7·8号孤立柱建物跡	…266	第306图	F区第39号孤立柱建物跡	…300
第272图	F区第9号孤立柱建物跡	…267	第307图	F区第40号孤立柱建物跡	…301
第273图	F区第10号孤立柱建物跡·出土遺物	…268	第308图	F区第41号孤立柱建物跡	…302
第274图	F区第11号孤立柱建物跡·出土遺物	…269	第309图	F区第42号孤立柱建物跡	…303
第275图	F区第12号孤立柱建物跡·出土遺物	…270	第310图	F区第43号孤立柱建物跡·出土遺物	…304
第276图	F区第13号孤立柱建物跡出土遺物	…271	第311图	F区第44号孤立柱建物跡·出土遺物	…305
第277图	F区第13号孤立柱建物跡	…272	第312图	F区第45号孤立柱建物跡·出土遺物	…306
第278图	F区第14号孤立柱建物跡	…274	第313图	F区第46号孤立柱建物跡·出土遺物	…308
第279图	F区第15号孤立柱建物跡	…275	第314图	F区第47号孤立柱建物跡·出土遺物	…310
第280图	F区第16号孤立柱建物跡	…276	第315图	F区第48号孤立柱建物跡	…311
第281图	F区第17号孤立柱建物跡·出土遺物	…277	第316图	F区第49号孤立柱建物跡	…312
第282图	F区第18号孤立柱建物跡	…278	第317图	F区第50号孤立柱建物跡·出土遺物	…313
第283图	F区第19号孤立柱建物跡·出土遺物	…279	第318图	F区第51号孤立柱建物跡·出土遺物	…314
第284图	F区第20号孤立柱建物跡	…280	第319图	F区第52号孤立柱建物跡	…315
第285图	F区第21号孤立柱建物跡	…281	第320图	F区第53号孤立柱建物跡·出土遺物	…316
第286图	F区第22号孤立柱建物跡	…282	第321图	F区第54号孤立柱建物跡	…317
第287图	F区第23号孤立柱建物跡	…283	第322图	F区第55号孤立柱建物跡	…318
第288图	F区第24号孤立柱建物跡·出土遺物	…284	第323图	F区第56号孤立柱建物跡	…319
第289图	F区第25号孤立柱建物跡·出土遺物	…285	第324图	F区第57号孤立柱建物跡	…319
第290图	F区第26号孤立柱建物跡·出土遺物	…286	第325图	F区第58号孤立柱建物跡	…320
第291图	F区第27号孤立柱建物跡	…287	第326图	F区第59号孤立柱建物跡	…321
第292图	F区第28号孤立柱建物跡出土遺物	…287	第327图	F区第60号孤立柱建物跡	…322
第293图	F区第28号孤立柱建物跡	…288	第328图	F区第61号孤立柱建物跡	…322
第294图	F区第29号孤立柱建物跡	…289	第329图	F区第62号孤立柱建物跡	…323
第295图	F区第30号孤立柱建物跡·出土遺物	…290	第330图	F区第63号孤立柱建物跡	…323
第296图	F区第31号孤立柱建物跡·出土遺物	…291	第331图	F区第64号孤立柱建物跡	…324
第297图	F区第32号孤立柱建物跡·出土遺物	…292	第332图	F区第65号孤立柱建物跡	…324
第298图	F区第33号孤立柱建物跡·出土遺物	…293	第333图	F区第66号孤立柱建物跡	…325
第299图	F区第34号孤立柱建物跡	…294	第334图	F区第68号孤立柱建物跡	…325

第335图	F区第67号掘立柱建物跡	326	第372图	F区土壙(10)(第51图)	360
第336图	F区第69号掘立柱建物跡	327	第373图	F区土壙(11)(第51图)	361
第337图	F区第70号掘立柱建物跡	327	第374图	F区土壙(12)(第51图)	362
第338图	F区第71号掘立柱建物跡	328	第375图	F区土壙(13)(第51图)	363
第339图	F区第72号掘立柱建物跡	328	第376图	F区土壙(14)(第52图)	364
第340图	F区第73号掘立柱建物跡	329	第377图	F区土壙(15)(第52图)	365
第341图	F区第74号掘立柱建物跡	330	第378图	F区土壙(16)(第52图)	366
第342图	F区第75号掘立柱建物跡	331	第379图	F区土壙(17)(第52图)	367
第343图	F区第76号掘立柱建物跡	332	第380图	F区土壙(18)(第53图)	367
第344图	F区第77号掘立柱建物跡·出土遺物	333	第381图	F区土壙(19)(第54图)	368
第345图	F区第78号掘立柱建物跡	334	第382图	F区土壙(20)(第54图)	369
第346图	F区第79号掘立柱建物跡	335	第383图	F区土壙(21)(第55图)	370
第347图	F区第80号掘立柱建物跡·出土遺物	335	第384图	F区土壙(22)(第55图)	371
第348图	F区第81号掘立柱建物跡	336	第385图	F区土壙(23)(第55图)	372
第349图	F区第82号掘立柱建物跡·出土遺物	337	第386图	F区土壙(24)(第55图)	373
第350图	F区第83号掘立柱建物跡	338	第387图	F区土壙(25)(第55图)	374
第351图	F区第84号掘立柱建物跡出土遺物	339	第388图	F区土壙(26)(第56图)	375
第352图	F区第85号掘立柱建物跡出土遺物	339	第389图	F区土壙(27)(第56图)	376
第353图	F区第84·85号掘立柱建物跡	340	第390图	F区土壙(28)(第58图)	377
第354图	F区第86号掘立柱建物跡·出土遺物	342	第391图	F区土壙(29)(第58图)	378
第355图	F区第87号掘立柱建物跡	344	第392图	F区土壙(30)(第58图)	379
第356图	F区第88号掘立柱建物跡	345	第393图	F区土壙(31)(第58图)	380
第357图	F区第89号掘立柱建物跡	346	第394图	F区土壙(32)(第58图)	381
第358图	F区第1号櫓列跡	347	第395图	F区土壙(33)(第59图)	382
第359图	F区第2·3·4·5号櫓列跡·出土遺物	348	第396图	F区土壙(34)(第59图)	383
第360图	F区第6·7号櫓列跡	349	第397图	F区土壙(35)(第59图)	384
第361图	F区第8·9·10·11号櫓列跡·出土遺物	350	第398图	F区土壙(36)(第59图)	385
第362图	F区第12号櫓列跡	351	第399图	F区土壙(37)(第61图)	385
第363图	F区土壙(1)(第46图)	352	第400图	F区土壙(38)(第61图)	386
第364图	F区土壙(2)(第46图)	353	第401图	F区土壙(39)(第61图)	387
第365图	F区土壙(3)(第47图)	353	第402图	F区土壙(40)(第62图)	388
第366图	F区土壙(4)(第48图)	354	第403图	F区土壙(41)(第62图)	389
第367图	F区土壙(5)(第48图)	355	第404图	F区土壙(42)(第62图)	390
第368图	F区土壙(6)(第49图)	356	第405图	F区土壙(43)(第63图)	391
第369图	F区土壙(7)(第49图)	357	第406图	F区土壙(44)(第63图)	392
第370图	F区土壙(8)(第49图)	358	第407图	F区土壙(45)(第65图)	393
第371图	F区土壙(9)(第49图)	359	第408图	F区土壙(46)(第65图)	394

第409图	F区土壤(47)(第65图)	395	第446图	F区井尸迹(19)(第58图)	440
第410图	F区土壤(48)(第66图)	395	第447图	F区井尸迹(20)(第59图)	441
第411图	F区土壤(49)(第67图)	396	第448图	F区井尸迹(21)(第59图)	442
第412图	F区土壤(50)(第67图)	397	第449图	F区井尸迹(22)(第60图)	443
第413图	F区土壤(51)(第67图)	398	第450图	F区井尸迹(23)(第62图)	444
第414图	F区土壤(52)(第67图)	399	第451图	F区井尸迹(24)(第62图)	445
第415图	F区土壤(53)(第67图)	400	第452图	F区井尸迹(25)(第62图)	446
第416图	F区土壤(54)(第68图)	401	第453图	F区井尸迹(26)(第62图)	447
第417图	F区土壤出土遗物(1)	409	第454图	F区井尸迹(27)(第63图)	447
第418图	F区土壤出土遗物(2)	410	第455图	F区井尸迹(28)(第63图)	448
第419图	F区土壤出土遗物(3)	411	第456图	F区井尸迹(29)(第63图)	449
第420图	F区土壤出土遗物(4)	412	第457图	F区井尸迹(30)(第65图)	449
第421图	F区土壤出土遗物(5)	413	第458图	F区井尸迹(31)(第65图)	450
第422图	F区土壤出土遗物(6)	414	第459图	F区井尸迹(32)(第65图)	451
第423图	F区土壤出土遗物(7)	415	第460图	F区井尸迹(33)(第66图)	451
第424图	F区土壤出土遗物(8)	416	第461图	F区井尸迹(34)(第67图)	452
第425图	F区土壤出土遗物(9)	417	第462图	F区井尸迹(35)(第67图)	453
第426图	F区土壤出土遗物(10)	418	第463图	F区井尸迹(36)(第68图)	453
第427图	F区土壤出土遗物(11)	419	第464图	F区井尸迹出土遗物(1)	459
第428图	F区井尸迹(1)(第46图)	426	第465图	F区井尸迹出土遗物(2)	460
第429图	F区井尸迹(2)(第48图)	427	第466图	F区井尸迹出土遗物(3)	461
第430图	F区井尸迹(3)(第49图)	427	第467图	F区井尸迹出土遗物(4)	462
第431图	F区井尸迹(4)(第51图)	428	第468图	F区井尸迹出土遗物(5)	463
第432图	F区井尸迹(5)(第51图)	429	第469图	F区井尸迹出土遗物(6)	464
第433图	F区井尸迹(6)(第51图)	430	第470图	F区井尸迹出土遗物(7)	465
第434图	F区井尸迹(7)(第52图)	431	第471图	F区井尸迹出土遗物(8)	466
第435图	F区井尸迹(8)(第52图)	432	第472图	F区井尸迹出土遗物(9)	467
第436图	F区井尸迹(9)(第52图)	433	第473图	F区井尸迹出土遗物(10)	468
第437图	F区井尸迹(10)(第53图)	433	第474图	F区清迹(1)(第46图)	472
第438图	F区井尸迹(11)(第54图)	434	第475图	F区清迹(2)(第47图)	472
第439图	F区井尸迹(12)(第54图)	435	第476图	F区清迹(3)(第48图)	472
第440图	F区井尸迹(13)(第55图)	436	第477图	F区清迹(4)(第49图)	473
第441图	F区井尸迹(14)(第55图)	437	第478图	F区清迹(5)(第51图)	474
第442图	F区井尸迹(15)(第56图)	437	第479图	F区清迹(6)(第52图)	475
第443图	F区井尸迹(16)(第56图)	438	第480图	F区清迹(7)(第53图)	475
第444图	F区井尸迹(17)(第57图)	439	第481图	F区清迹(8)(第54图)	476
第445图	F区井尸迹(18)(第58图)	439	第482图	F区清迹(9)(第55图)	477

第483図	F区溝跡(10)(第56図) ……………	478	第498図	F区溝跡出土遺物(5) ……………	491
第484図	F区溝跡(11)(第57図) ……………	479	第499図	F区溝跡出土遺物(6) ……………	492
第485図	F区溝跡(12)(第58図) ……………	479	第500図	F区溝跡出土遺物(7) ……………	493
第486図	F区溝跡(13)(第59図) ……………	480	第501図	F区溝跡出土遺物(8) ……………	494
第487図	F区溝跡(14)(第60図) ……………	480	第502図	F区茶毘跡 ……………	500
第488図	F区溝跡(15)(第61図) ……………	481	第503図	F区第1号墓墳・出土遺物 ……………	501
第489図	F区溝跡(16)(第62図) ……………	481	第504図	F区第1号性格不明遺構 ……………	502
第490図	F区溝跡(17)(第63図) ……………	481	第505図	F区第1号性格不明遺構出土遺物(1) ……	503
第491図	F区溝跡(18)(第65図) ……………	482	第506図	F区第1号性格不明遺構出土遺物(2) ……	504
第492図	F区溝跡(19)(第66図) ……………	482	第507図	F区第2号性格不明遺構 ……………	505
第493図	F区溝跡(20)(第67図) ……………	482	第508図	F区第2号性格不明遺構出土遺物 ……	506
第494図	F区溝跡出土遺物(1) ……………	487	第509図	F区ビット出土遺物 ……………	508
第495図	F区溝跡出土遺物(2) ……………	488	第510図	F区グリッド・表採遺物(1) ……………	510
第496図	F区溝跡出土遺物(3) ……………	489	第511図	F区グリッド・表採遺物(2) ……………	511
第497図	F区溝跡出土遺物(4) ……………	490			

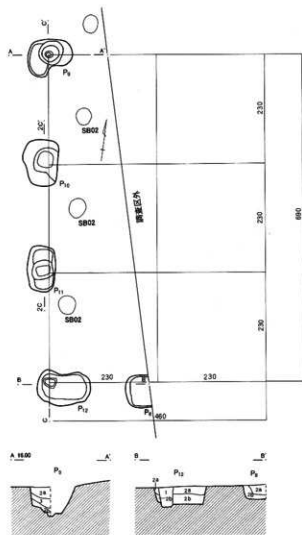
## 2. 掘立柱建物跡

### 第1号掘立柱建物跡 (第265・68図)

桁行3間の側柱掘立柱建物跡で、梁行は2間と想定される。BG59・60、BH59・60グリッドに位置し、第2号掘立柱建物跡と重複する。

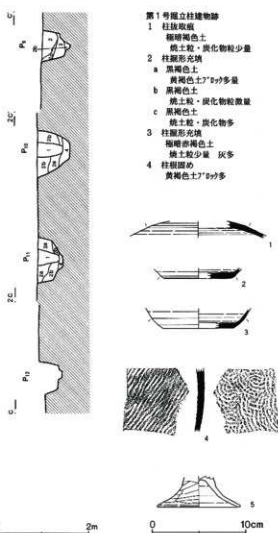
柱間は桁行2.30m、梁行2.30m、規模は桁行6.90mを測り、梁行4.60m、面積31.74㎡と推定される。桁行は東西に面し、軸方位をN-6°-Wに向ける。

第265図 F区第1号掘立柱建物跡・出土遺物



柱は抜き取られている。柱掘形は方形を基本とし、隅柱はL字形を呈している。上層には黄褐色土ブロックを含む黒褐色土、下層には灰を多く含む極暗赤褐色土が充填されている。また最下層には、柱の根固めとして黄褐色土ブロックが敷き詰められている。

遺物は図示したほかに、須恵器壺・坏片、土師器壺・坏片が出土している。



第1号掘立柱建物跡

1 柱抜取痕

極暗褐色土  
焼土粒・炭化物粒少量

2 柱掘形充填

a 黒褐色土

b 黄褐色土ブロック多量

c 黒褐色土

焼土粒・炭化物多

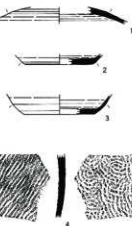
3 柱掘形充填

極暗赤褐色土

焼土粒少量 灰多

4 柱根固め

黄褐色土ブロック多

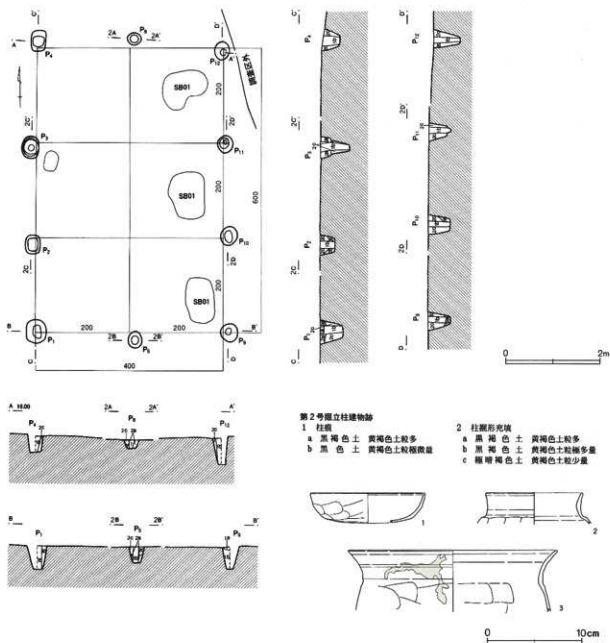


0 10cm

F区第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第265図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(1.7)		WB針	B	灰	5	P5 南比余産
2	坏	(1.1)	(7.0)		WB針	B	灰	10	P4 南比余産 底部全面へラ
3	坏	(2.1)	(7.5)		WB針	A	灰	5	P4 南比余産
4	壺				WB	B	灰		P1 南比余産?
5	台付壺	(3.3)	(8.8)		WBR	B	暗褐	5	P4

第266図 F区第2号掘立柱建物跡・出土遺物



F区第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第266図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(11.9)	(3.1)		WB	B	橙	15	P 1
2	小型甕	(10.0)	(3.2)		WB	C	黒褐	5	P10
3	甕	(21.9)	(6.5)		WBR	B	橙	5	P10 タール状の付着物

第2号掘立柱建物跡 (第266・68図)

桁行3間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡で、BG59、BH59グリッドに位置する。第1号掘立柱建物跡と重複する。

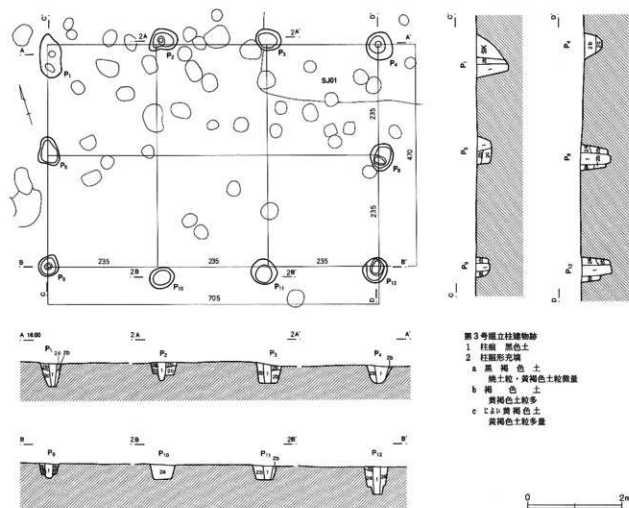
柱間は桁行2.00m、梁行2.00m、規模は桁行6.00

m×梁行4.00m、面積24.00㎡を測る。桁行は東西に面し、軸方位をN-1°-Eに向ける。

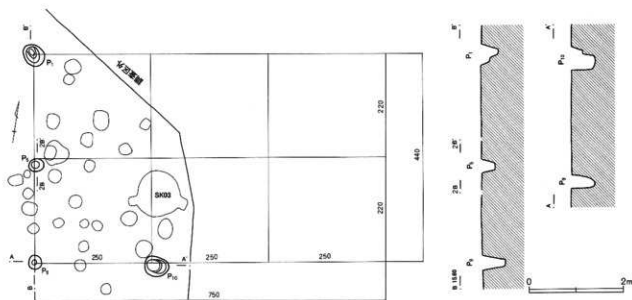
柱痕は、いずれの柱穴からも確認されている。柱痕形は方形もしくは円形で、隅柱に比べ中間柱は浅い。黄褐色土粒を含む黒褐色土が充填されている。



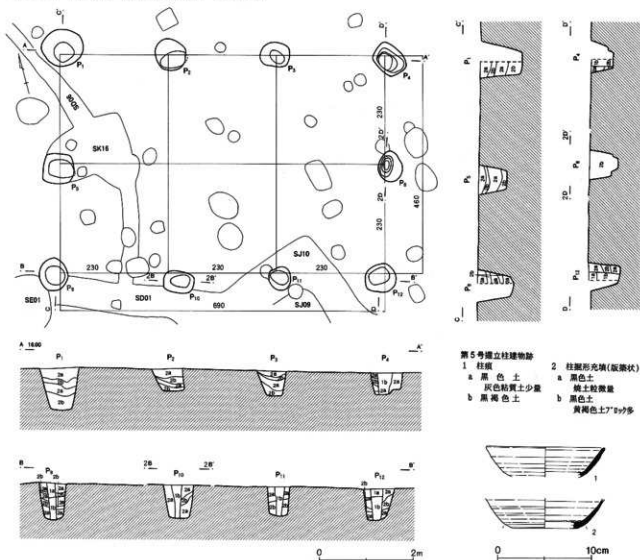
第267图 F区第3号独立柱建物跡



第268图 F区第4号独立柱建物跡



第269図 F区第5号掘立柱建物跡・出土遺物



F区第5号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第269図)

番号	器種	口径	器高	底径	粘土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(12.4)	(3.2)		W針	B	灰	15	P 6 南北企産
2	坏		(3.2)	(7.0)	WB針	B	灰	15	P 9 南北企産 底部全面ヘラ

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片が出土している。

### 第3号掘立柱建物跡 (第267・67・68図)

桁行3間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡で、BF58・59グリッドに位置する。第1号住居跡と重複する。

柱間は桁行2.35m、梁行2.35m、規模は桁行7.05m×梁行4.70m、面積33.135㎡を測る。桁行は南北に面し、軸方位をN-18.5°-Eに向ける。

柱底はP10を除くすべての柱穴から確認され、黒色土が堆積している。柱掘形へは黒褐色土・褐色土・黄

褐色土が充填され、一部、版築状に丁寧に突き固めといった様子を看取できるものもある。

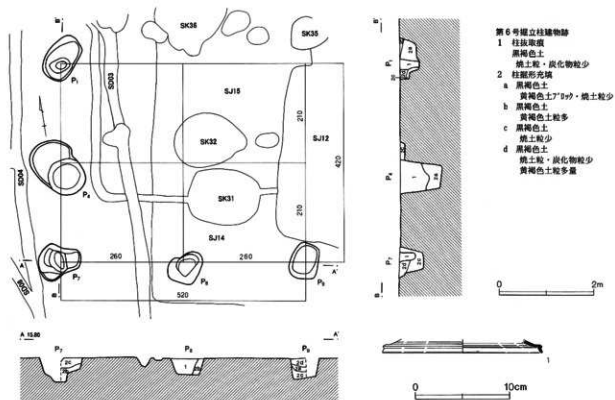
遺物は図示し得ないが、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

### 第4号掘立柱建物跡 (第268・68図)

桁行3間×梁行2間と想定される側柱掘立柱建物跡である。BF59グリッドに位置し、2間×1間のL字形に柱並びが検出されているのみで、東半は調査区外にある。

柱間は桁行2.50m、梁行2.20m、規模は桁行7.50m

第270図 F区第6号掘立柱建物跡・出土遺物



F区第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第270図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋	(16.8)	(1.4)		B針	B	灰	5	P1 南比全産

を測り梁行4.40m、面積33.00m<sup>2</sup>と推定される。桁行は南北に面するものと推測され、軸方位をN-7°-Wに向ける。柱掘形は円形で、規模が小さく、浅い。柱痕の有無や、柱掘形への充填状況などは不明である。

出土遺物は少なく、須恵器破片が出土している。

#### 第5号掘立柱建物跡 (第269・67図)

桁行3間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡で、BE57、BF57・58グリッドに位置する。第9・10号住居跡、第16号土壌、第1号井戸跡、第1・6号溝跡と重複する。

柱間は桁行2.30m、梁行2.30m、規模は桁行6.90m×梁行4.60m、面積31.74m<sup>2</sup>を測る。桁行は南北に面し、軸方位をN-13°-Eに向ける。

柱痕がP4・P9・P10・P11・P12で確認されている。柱掘形は方形もしくは円形で、黒色土が充填されている。隅柱では版築状に丁寧に衝き固めていった

様子もみられる。

遺物は図示したほかに、須恵器裏・坏片、土師器裏・坏片が出土している。

#### 第6号掘立柱建物跡 (第270・67図)

BG56・57、BH56・57グリッドに位置する。2間×2間のL字形に並ぶ柱穴列で、周辺には同規模の柱穴は存在していない。ここでは桁行2間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡と想定するが、上屋構造は不明である。第12・14・15号住居跡、第31・32号土壌、第3号溝跡と重複する。

柱間は東西列2.60m、南北列2.10m、規模は東西5.20m×南北4.20m、面積21.84m<sup>2</sup>を測る。軸方位をN-8.5°-Eに向ける。

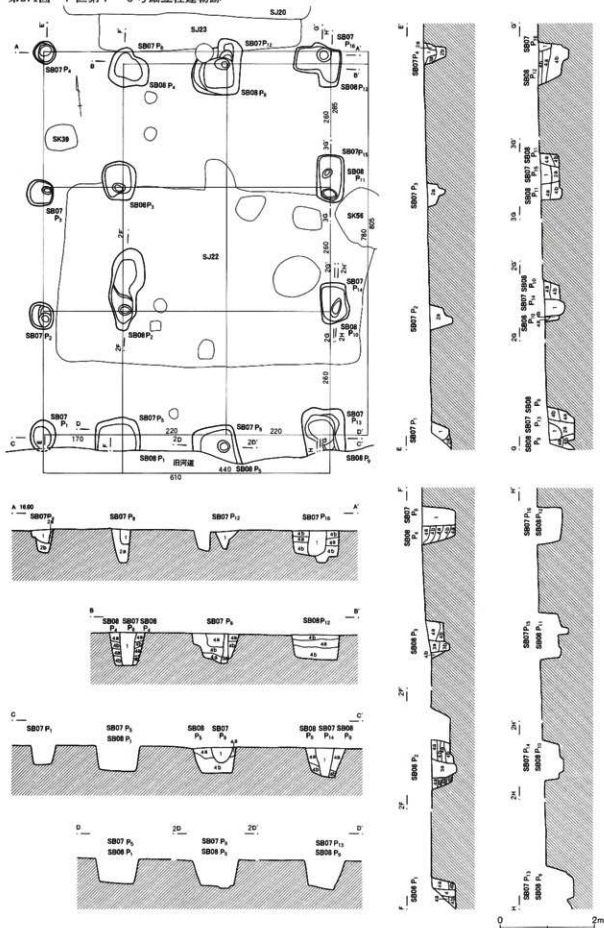
#### 第7号掘立柱建物跡

- 柱穴痕跡 黒褐色土
- 柱掘形充填
  - 黒褐色土 黄褐色土粒多
  - 極暗褐色土 黄褐色土7割多

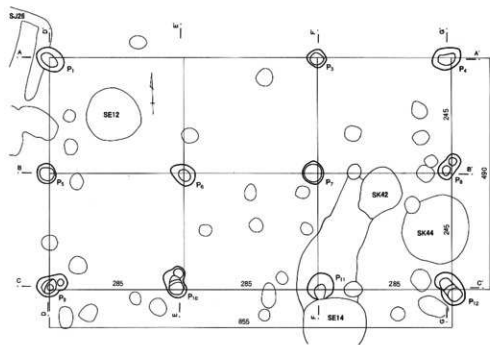
#### 第8号掘立柱建物跡

- 柱穴痕跡の人為的充填
  - 黒褐色土 黄褐色土粒多
  - 黒褐色土7割多 黄褐色土粒少
- 柱掘形充填
  - 極暗褐色土 黄褐色土粒少量
  - 褐色土 黄褐色土7割多量

第271图 F区第7·8号撮立柱建物跡



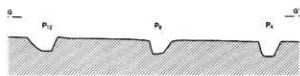
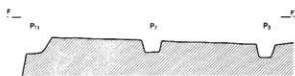
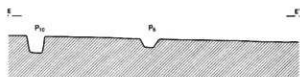
第272图 F区第9号掘立柱建物跡



第9号掘立柱建物跡

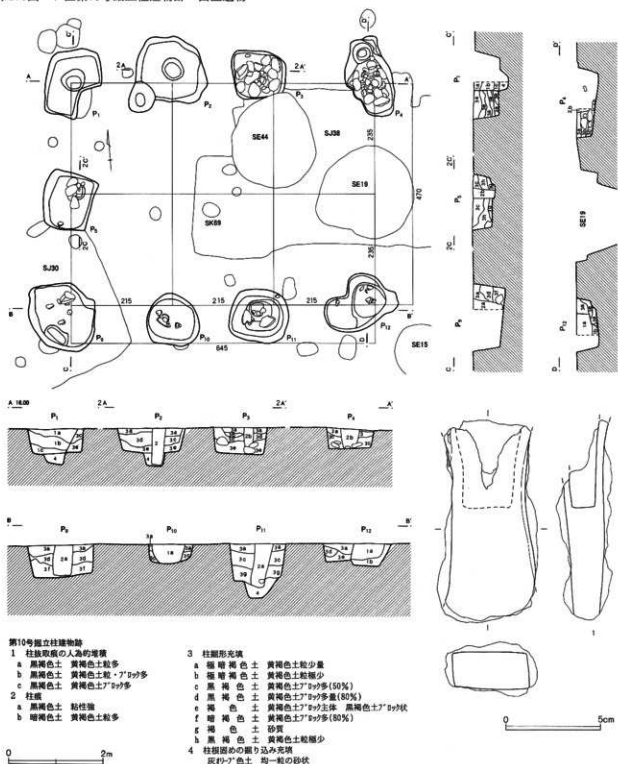
- 1 柱状取組
  - a 黒褐色土 黒褐色土層粒極微量
  - b 黒褐色土 黒褐色土粒多
- 2 柱状形充填
  - 黒褐色土
  - 黒褐色土7"p多

A 1800



0 2m

第273図 F区第10号掘立柱建物跡・出土遺物



F区第10号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第273図)

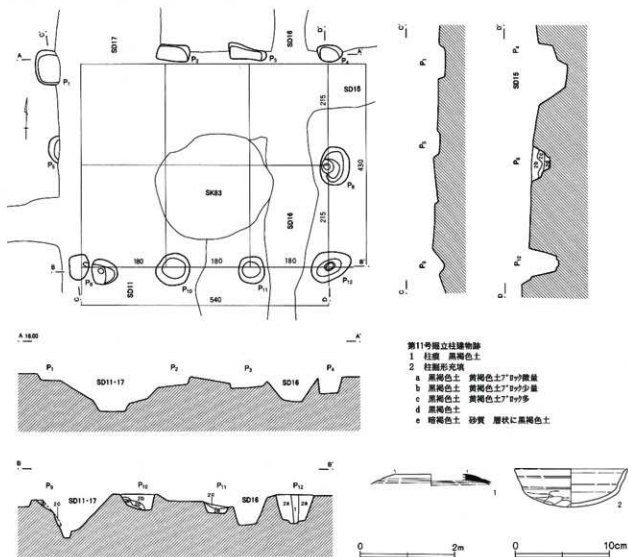
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	鉄芥								P12 Na 2 長さ10.5×幅4.4×厚さ1.95×重さ195.4g

柱筋は整っており、柱は抜き取られている。柱掘形は方形を基本とし、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐

色土が充填されている。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏・蓋片、土師

第274図 F区第11号掘立柱建物跡・出土遺物



F区第11号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第274図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(1.2)		WB 針	B	にふい赤褐	5	P 8 南北企産
2	環	(11.8)	4.1		WB	B	黒褐	15	P 8

器蓋・環片が出土している。

### 第7・8号掘立柱建物跡 (第271・67図)

BH55・56、BG56グリッドに位置し、第8号掘立柱建物跡が第7号掘立柱建物跡に建て替えられている。

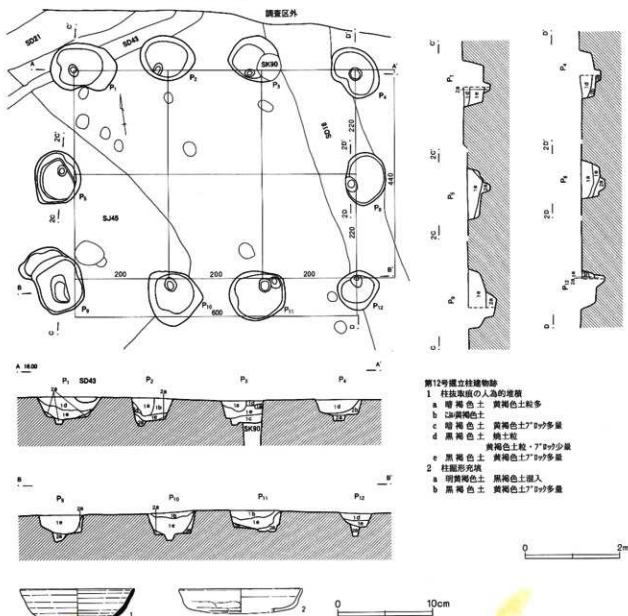
第22・23号住居跡、第56号土壇と重複し、南端の柱列は河川の氾濫によって浸食されている。

建て替え前の第8号掘立柱建物跡は桁行3間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡である。柱間は桁行2.60m、梁行2.20m、規模は桁行7.80m×梁行4.40m、面積34.32㎡を測る。桁行は東西に面し、軸方位をN-6°

一E°に向ける。柱筋は整っている。柱は抜き取られ、P2・P3は人為的に埋め戻されている。柱掘形は方形を基本とし、隅柱はL字形を呈している。黄褐色土粒を含む極暗褐色土と黄褐色土ブロックを含む褐色土が互層に充填されている。

建て替え後の第7号掘立柱建物跡は桁行3間×梁行3間の側柱掘立柱建物跡である。梁行が西側に1間拡張され、東辺・南辺・北辺は第8号掘立柱建物跡の柱抜き取り痕を再利用している。柱間は桁行2.85m-2.60m-2.60m、梁行1.70m-2.20m-2.20m、規模

第275図 F区第12号掘立柱建物跡・出土遺物



F区第12号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第275図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	環	(12.0)	(3.2)		WB針	B	灰	5	P 7 南北倉産
2	環	(12.9)	(2.5)		WBR	B	橙	10	P 4 油芯

は桁行8.05m×梁行6.10m、面積49.105㎡を測る。桁行は東西に面し、軸方位をN-6°-Eに向ける。柱筋は整い、柱は抜き取られている。西辺の柱掘形は方形で、平面規模は小さい。黄褐色土粒を含む極暗褐色土と黄褐色土ブロックを含む褐色土が充填されている。

遺物は図示し得ないが、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第9号掘立柱建物跡 (第272・65・67図)

桁行3間×梁行2間の総柱掘立柱建物跡で、BD55・56、BE55-56グリッドに位置する。第26号住居跡、第42・44号土塊、第12号井戸跡と重複する。

柱間は桁行2.85m、梁行2.45m、規模は桁行8.55m×梁行4.90m、面積41.895㎡を測る。桁行は南北に面し、軸方位をN-3°-Eに向ける。桁行北辺のP 2



第13号掘立柱建物跡

1 柱採取痕の人為的埋戻

- a 黒褐色土 黄褐色土少量
- b 黒褐色土 黄褐色土粒少量(10%)
- c 黒褐色土 黄褐色土20%~30%程度
- d 黒褐色土 黄褐色土50%程度
- e 黒褐色土 黄褐色土80%程度
- f 明黄褐色土 黒褐色土粒状

2 柱痕

- a 黒褐色土 黄褐色土粒少量
- b 黒褐色土 粒径大
- c 黒褐色土 黄褐色土粒・炭化物粒少量
- d 黒褐色土 黄褐色土粒多

3 柱掘形充填 黒褐色土と黄褐色土の混合層

- a 黒褐色土と粒径均一な黄褐色土粒20%
- b 黒褐色土90%以上+黄褐色土10%未満
- c 黒褐色土70%+黄褐色土30%
- d 黒褐色土50%+黄褐色土50%
- e 黒褐色土20~30%+黄褐色土70~80%
- f 黒褐色土10%未満+黄褐色土90%以上
- g 地山に近似的な砂質の明黄褐色土
- 黒褐色土ア?状若干

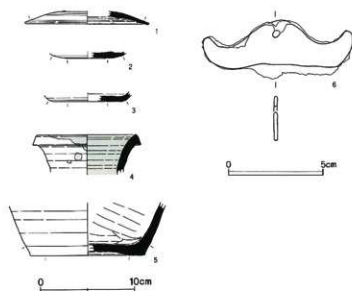
4 柱根面の掘り込み充填 緑灰色土 砂質

5 P132遺土

P132に對する第13号掘立柱建物跡付置施設少

- a 黒褐色土 細かい黄褐色土粒・粘土粒少量
- b 明黄褐色土 黒褐色土ア?状少量

第276図 F区第13号掘立柱建物跡出土遺物



F区第13号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第276図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋	(13.2)	(1.4)		WB	A	灰白	5	P2 湖西 or 秋田産?
2	環		(0.7)	(7.4)	WB 針	A	灰白	5	P32 南北企産 底部周辺へラ
3	環		(1.0)	(7.2)	WBR 針	A	灰白	5	P2 南北企産 底部周辺へラ
4	小型変	(10.2)	(4.2)		WB 針	B	灰	5	P2 南北企産 内外面自然釉付着
5	環		(5.6)	(12.0)	WB 針	B	灰	10	P22 南北企産
6	火打金								P4 長さ8.0×幅2.4×厚さ0.2×重さ17.8g

は検出されていない。

柱筋は整い、柱は抜き取られている。柱掘形は円形で、黄褐色土を多く含む黒褐色土が充填されている。深さは隅柱に比べ、桁梁中間柱・東柱が浅い傾向もみられる。

遺物は出土していない。

第10号掘立柱建物跡 (第273・65図)

桁行3間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡で、BE53・54、BF53・54グリッドに位置する。第30・69号住居跡、第19・44号井戸跡と重複する。

柱間は桁行2.15m、梁行2.35m、規模は桁行6.45m×梁行4.70m、面積30.315㎡を測る。桁行は南北に面し、軸方位をN-3°-Eに向ける。

柱筋は桁行の中間柱が外方に張り出す。柱は基本的には抜き取られ、P1・P10・P12では抜き取り痕が確認されている。P2・P3・P4・P5・P9・P11には柱痕が残存し、柱抜き取りの際に掘り返さずに地上部で切断するなどして柱材を持ち去り、埋設部は

放置されたものと思われる。柱掘形は方形を呈し、黄褐色土粒・ブロックを含む極暗褐色土・黒褐色土が版築状に丁寧に衝き固めながら充填されている。柱掘形底面には拳大から人頭大の河原石が発見されている。

検出状況から、柱材の沈降を防ぐために柱根に敷き詰めたものではなく、柱掘形に柱を設置した際にズレや倒壊を防ぐ目的で、柱根周辺に置かれたものと想定される。またP1・P2・P11では、柱位置をビット状に掘り込み、灰オリーブ砂が充填されている。

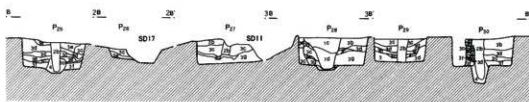
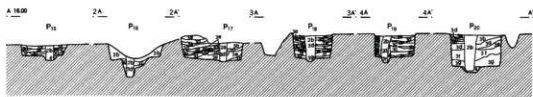
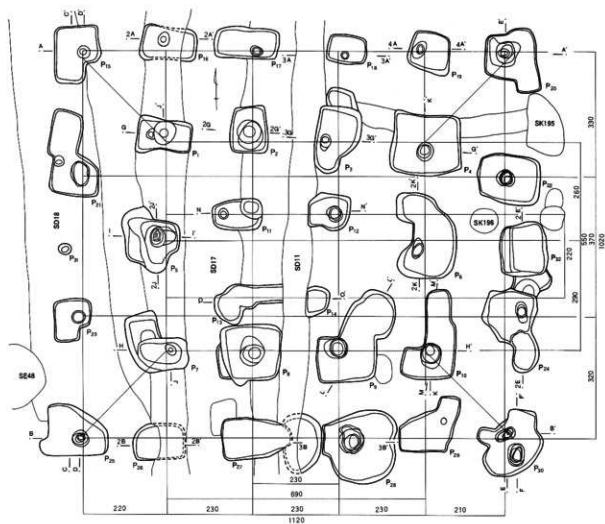
遺物はP12から袋状鉄斧が検出され、ほかに図示し得ないが、須恵器甕・環片、土師器甕・環片も出土している。

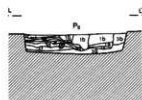
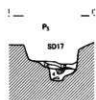
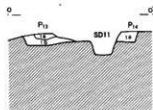
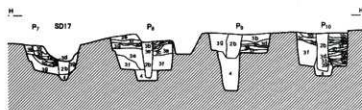
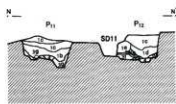
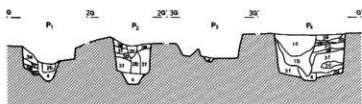
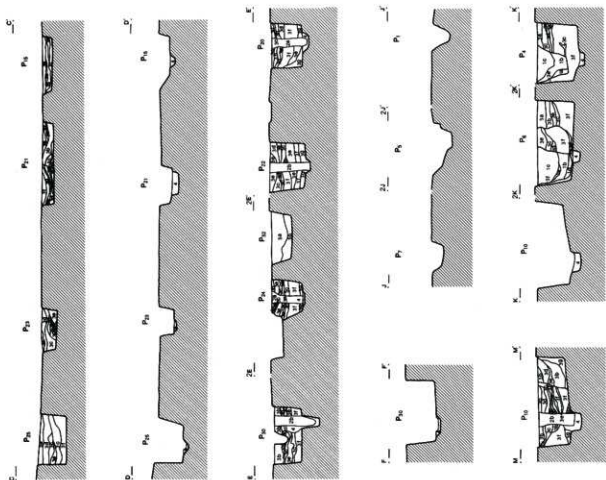
第11号掘立柱建物跡 (第274・62図)

桁行3間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡で、BC51・52、BD51・52グリッドに位置する。第83号土壇、第11・15・16・17号溝跡と重複し、北辺・西辺の柱穴は削平されている。

柱間は桁行1.80m、梁行2.15m、規模は桁行5.40

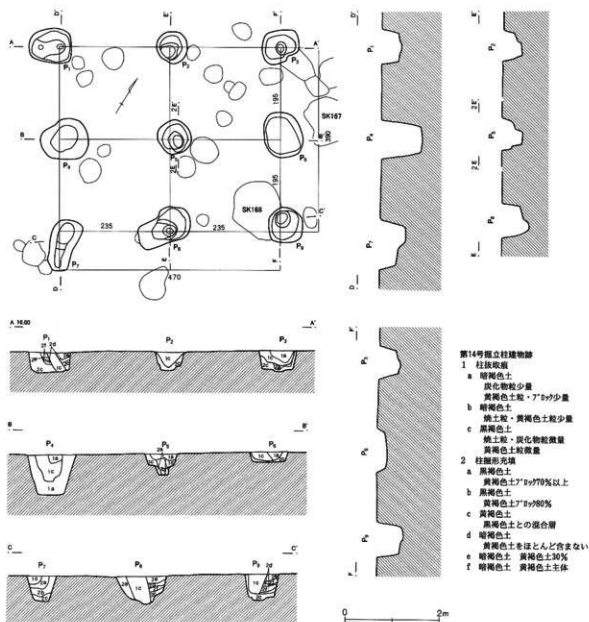
第277图 F区第13号掘立柱建物跡





0 2m

第278図 F区第14号掘立柱建物跡



m×梁行4.30m、面積23.22㎡を測る。桁行は南北に面し、軸方位をN-3°-Wに向ける。

柱筋は整っている。柱痕はP12で確認されている。柱掘形は円形もしくは楕円形で、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が充填されている。

遺物は図示したほかに、須恵器甕片、土師器甕・坏片が出土している。

#### 第12号掘立柱建物跡 (第275・62図)

桁行3間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡で、BC50-51、BD50-51グリッドに位置する。第45号住居跡、第

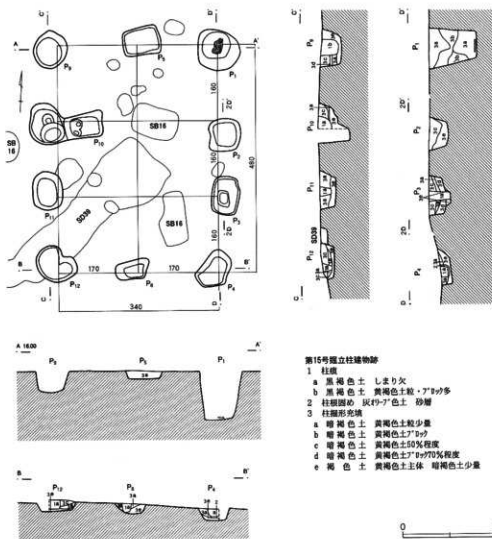
90号土塊、第18・21・43号溝跡と重複する。

柱間は桁行2.00m、梁行2.20m、規模は桁行6.00m×梁行4.40m、面積26.40㎡を測る。桁行は南北に面し、軸方位をN-8°-Eに向ける。

柱筋は、桁梁中間柱が外方に張り出す。柱は抜き取られ、人為的に埋め戻されている。柱掘形は隅丸方形を基本とし、P1・P4の隅柱はL字形を呈している。黄褐色土ブロックを含む黒褐色土が充填されている。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・蓋片、土師器甕・坏片が出土している。

第279図 F区第15号掘立柱建物跡



第15号掘立柱建物跡

- 1 柱眼
  - a 黒褐色土 しまり欠
  - b 黒褐色土 黄褐色土粒・アツツ多
- 2 柱眼囲め 灰砂・アツツ色土 砂層
- 3 柱眼形充填
  - a 暗褐色土 黄褐色土粒少量
  - b 暗褐色土 黄褐色土アツツ
  - c 暗褐色土 黄褐色土50%程度
  - d 暗褐色土 アツツ70%程度
  - e 暗褐色土 黄褐色土主体 暗褐色土少量

第13号掘立柱建物跡 (第276・277・62・65図)

BE51・52、BF51・52グリッドに位置し、第196号土壌、第11・17・18号溝跡と重複する。

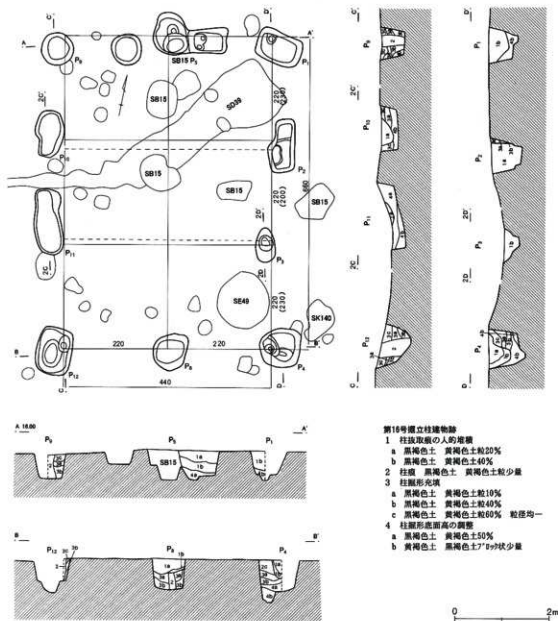
四面に庇が付設された掘立柱建物跡で、桁行3間×梁行2間の身舎の柱並びに対し、中央には桁行1間×梁行1間の東柱列、周囲には桁行5間×梁行3間の庇列、計3重の柱列が並ぶ。桁行は南北に面し、軸方位をN-2°-Eに向ける。身舎・庇・東柱の柱筋は南北方向が整っているのに対し、東西方向は身舎・庇・東柱の梁行柱間がそれぞれ異なり、柱筋は並ばない。この状況は、南側を正面として意識した構造と捉えられる。また庇の梁行柱列中央の柱筋から張り出した左右対称位置に、柱穴が1本ずつ所在する。構造的な要素

は不明であるが、第13号掘立柱建物跡に付随するものと判断される。

身舎の柱間は桁行2.30m、梁行2.60m—2.90m、規模は桁行6.90m×梁行5.50m、面積37.95㎡を測る。庇の柱間は桁行2.20m—2.30m—2.30m—2.30m—2.10m、梁行3.30m—3.70m—3.20m、東柱の柱間は桁行2.30m、梁行2.20mを測る。庇までを含めた規模は桁行11.20m×梁行10.20m、面積114.24㎡を有する。

柱掘形の断面観察から、建物の建て替えが確認されている。建て替え段階には既存の柱を抜き取り、その柱抜き取り痕を再利用して柱を設置している様子が看取できる。建て替え後の柱痕は残存している柱穴が多いが、柱を抜き取られている痕跡も確認されている。

第280図 F区第16号掘立柱建物跡



第16号掘立柱建物跡

- 1 柱抜き痕の人的塔構
  - a 黒褐色土 黄褐色土粒20%
  - b 黒褐色土 黄褐色土粒40%
- 2 柱礎 黒褐色土 黄褐色土粒少量
- 3 柱断面充填
  - a 黒褐色土 黄褐色土粒10%
  - b 黒褐色土 黄褐色土粒40%
  - c 黒褐色土 黄褐色土粒60% 粒径均一
- 4 柱断面底面高の調整
  - a 黒褐色土 黄褐色土50%
  - b 黄褐色土 黒褐色土70%状少量

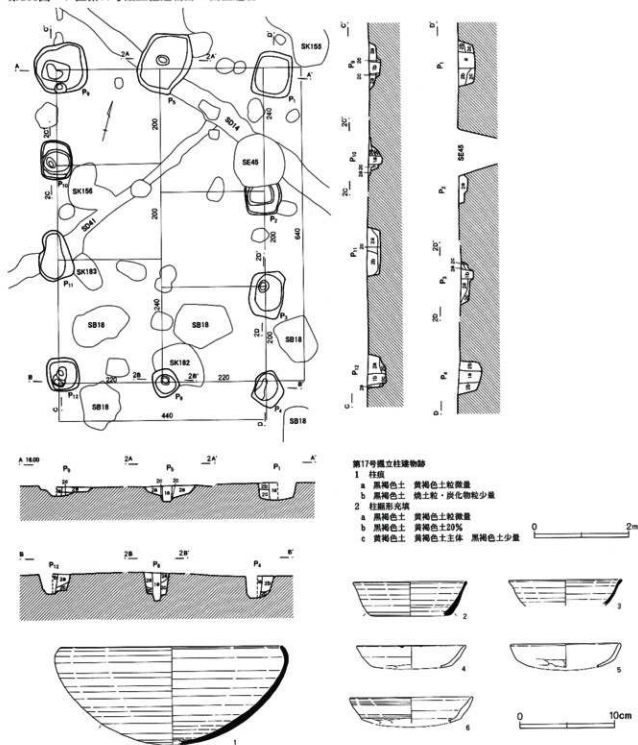
建物廃棄段階には柱が取り去られ、抜き取るか、もしくは地上部で切断され、埋設部はそのまま放置されたものと推測される。

身舎の柱掘形は南面する隅柱がL字形、ほかは方形である。中間柱で方形を呈していないものは、建て替え段階の柱抜き取り痕の影響によるものである。庇の柱掘形は隅柱がL字形、ほかは方形である。方形を呈さない中間柱は身舎と状況は同じである。東柱の柱掘形は方形を基本としているが、重複する第11号溝跡に攪乱されているために不明瞭である。

身舎・庇とも柱の設置位置をビット状に掘り込み、砂質な緑灰色土が充填されている。また掘り込みの浅いものは柱根周囲にも砂質な緑灰色土を据えて、柱を固定している。P5からは柱根に敷かれた板材も発見されている。柱掘形には黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が丁寧に版築しながら充填されている。周辺に位置する掘立柱建物跡と比べると、衝き固める単位は細かい。

検出された柱掘形から上屋構造を復元することは困難であるが、東柱が身舎・庇の柱掘形に比べて浅く、

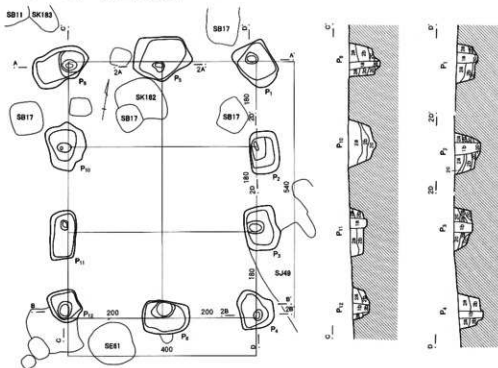
第281図 F区第17号掘立柱建物跡・出土遺物



F区第17号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第281図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	鉄鉢	(23.4)	(10.4)		W針	B	灰	30	P 2 南北企産
2	环	(11.9)	(3.6)		WB針	B	灰	5	P 2 南北企産
3	环	(11.9)	(2.8)		W針	B	灰	5	P 2 南北企産
4	环	(11.5)	(2.4)		WB	B	橙	5	P 6 油芯の付着
5	环	(11.6)	(2.5)		BR	B	橙	5	P 8
6	环	(12.9)	(2.8)		B	B	橙	5	P 9

第282図 F区第18号掘立柱建物跡



第18号掘立柱建物跡

- 1 柱痕  
 a 黒褐色土 炭化物少量  
 b 黒褐色土 粘土粒微量  
 2 柱断面充填  
 a 黒褐色土 黄褐色土約10%  
 b 黒褐色土 黄褐色土約40%  
 c 黒褐色土 黄褐色土約60%

0 2m

四面に庇を付設し、また身舎隅柱から45°方向に庇隅柱が一致することから、東立て床が貼られた寄棟造りの建物構造が想定される。

遺物はP4より火打金（火打鎌）が出土し、図示したほかに須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片がある。

第14号掘立柱建物跡（第278・62図）

桁行2間×梁行2間の総柱掘立柱建物跡である。BE50グリッドに位置し、第168号土壌と重複する。

柱間は桁行2.35m、梁行1.95m、規模は桁行4.70m×梁行3.90m、面積18.33㎡を測る。桁行は南北に面し、軸方位をN-32.5°-Wに向ける。

柱は抜き取られている。柱掘形は方形で、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が丁寧に衝き固められて

充填されている。

遺物は図示し得ないが、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第15号掘立柱建物跡（第279・62図）

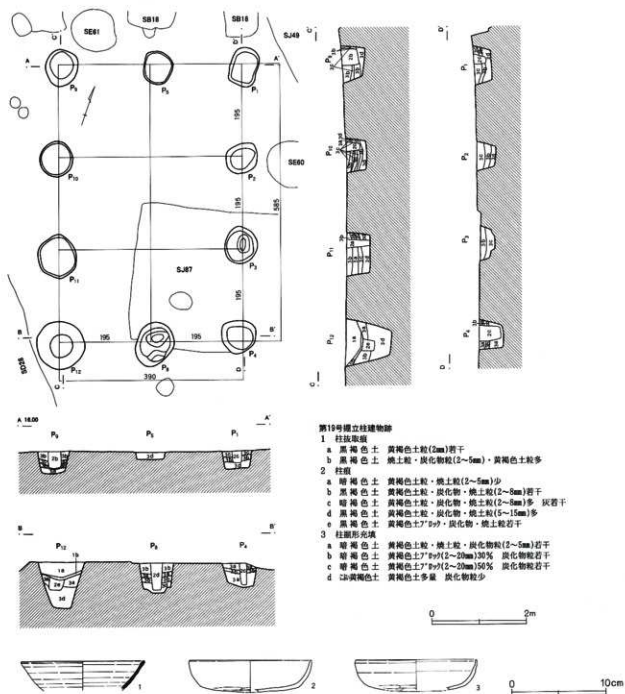
桁行3間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡である。BE50・51、BF50・51グリッドに位置し、第39号溝跡と重複する。第16号掘立柱建物跡は第15号掘立柱建物跡よりも新しい。

柱間は桁行1.60m、梁行1.70m、規模は桁行4.80m×梁行3.40m、面積16.32㎡を測る。桁行は東西に面し、軸方位をN-3°-Wに向ける。

柱筋は桁行中間柱が張り出している。柱痕がP3・P4・P8・P9・P10・P11・P12で確認されてい



第283図 F区第19号掘立柱建物跡・出土遺物



F区第19号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第283図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	環	(13.0)	(3.1)		WB 針	A	灰	5	P 8 南比金産
2	環	(12.8)	(3.4)		WB	B	橙	20	P 8
3	環	(12.7)	(3.2)		WB	A	にぶい・橙	10	P 11

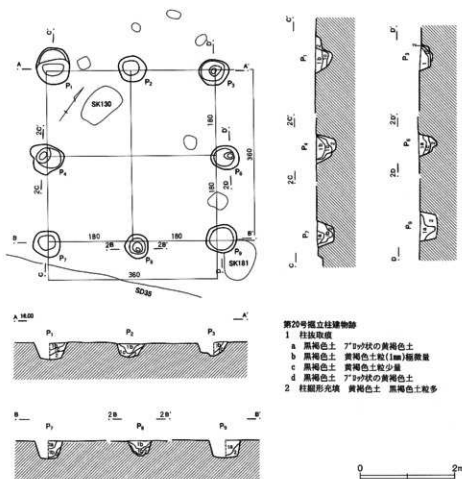
る。柱掘形は方形を基本とし、南辺の隅柱はL字形を呈している。黄褐色土粒・ブロックを含む暗褐色土が充填されている。隅柱のP1は、ほかの柱穴よりも深く掘り込まれ、柱根には板が敷かれている。

遺物は図示し得ないが、須恵器甕片、土師器甕・坏片が出土している。

第16号掘立柱建物跡 (第280・62図)

桁行3間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡である。

第284図 F区第20号掘立柱建物跡



BE50・51、BF50・51グリッドに位置し、第15号掘立柱建物跡、第49号井戸跡、第39号溝跡と重複する。

桁行中間柱が張り出し、相対する柱位置も0.1mほどのズレがある。柱間は桁行2.20mもしくは2.30m—2.00m—2.30m、梁行2.20m、規模は桁行6.60m×梁行4.40m、面積29.04㎡を測る。桁行は東西に面し、軸方位をN—10.5°—Wに向ける。

柱は抜き取られ、人為的に埋め戻されている。柱掘形は方形もしくは不整形で、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が互層に衝き固められて充填されている。P1・P4・P5・P10・P11では柱掘形底面の高さを調整するために、黒褐色土が敷き詰められている。

遺物は図示し得ないが、土師器甕・坏片が出土している。

**第17号掘立柱建物跡 (第281・62・63図)**

桁行3間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡である。

BG51、BF51グリッドに位置し、第18号掘立柱建物跡、第156・182・183号土塊、第45号井戸跡、第14・41号溝跡と重複する。

桁行は東西に面し、軸方位をN—15.5°—Wに向ける。桁行の相対する柱穴位置は一致せず、桁行西辺の柱間は2.00m—2.00m—2.40m、桁行東辺は2.40m—2.00m—2.00m、梁行の柱間は2.20m、規模は桁行6.40m×梁行4.40m、面積28.16㎡を測る。

柱痕はP2・P11を除く柱穴から確認されている。柱掘形は方形を呈し、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が充填されている。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片、鉄滓が出土している。

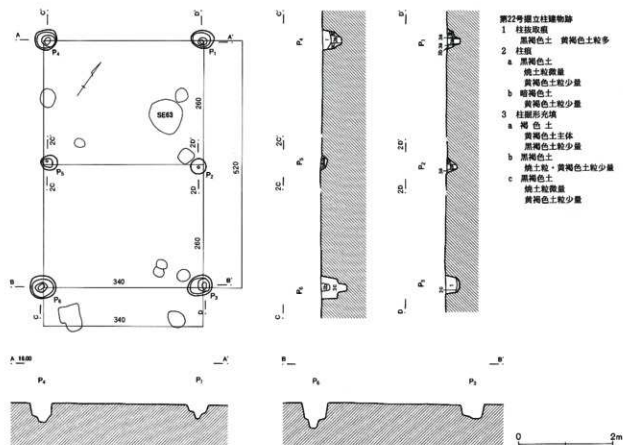
**第18号掘立柱建物跡 (第282・63図)**

桁行3間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡である。

BG51、BH51グリッドに位置し、第49号住居跡、第17



第286図 F区第22号掘立柱建物跡



られ、柱位置が捉えられる。

遺物は図示し得ないが、土師器・坏片が出土している。

#### 第21号掘立柱建物跡 (第285・58図)

桁行2間×梁行2間の総柱掘立柱建物跡である。BF48グリッドに位置し、第74号掘立柱建物跡、第164号土壌、第34・37号溝跡と重複する。

柱間は桁行2.10m、梁行1.80m、規模は桁行4.20m×梁行3.60m、面積15.12㎡を測る。桁行は南北に面し、軸方位をN-21°-Wに向ける。

梁行中間柱は張り出す。柱痕の有無や柱掘形への充填状況等は不明である。

遺物は図示し得ないが、土師器・坏片が出土している。

#### 第22号掘立柱建物跡 (第286・54図)

桁行2間×梁行1間の側柱掘立柱建物跡である。BB43、BC43・44グリッドに位置し、第63号井戸跡と重複する。

柱間は桁行2.60m、規模は桁行5.20m×梁行3.40m、面積17.68㎡を測る。桁行は東西に面し、軸方位をN-35.5°-Wに向ける。

P3・P4では柱が抜き取られ、P1・P2・P5・P6には柱痕が確認されている。柱掘形は隅丸方形で、焼土粒・黄褐色土粒を含む黒褐色土が充填されている。

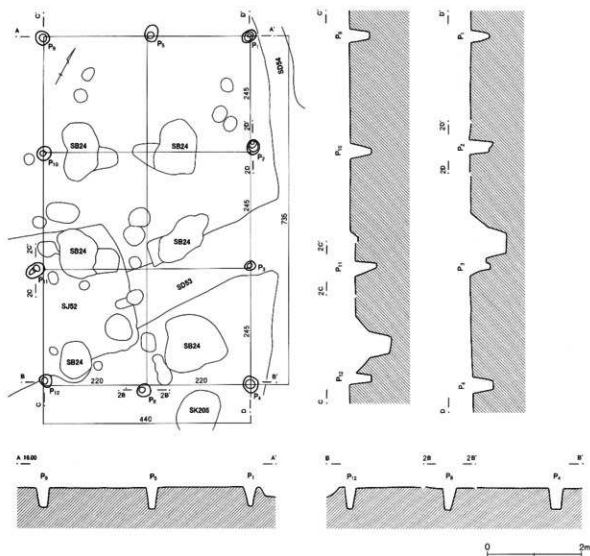
第22号掘立柱建物跡は、古代集落を区画する第26号溝跡の外側の区画に位置し、間数、柱掘形の規模、覆土の状態等も、検出されている古代の掘立柱建物跡とは異質な感がある。また桁行中間柱の柱掘形が隅柱に比べてきわめて浅く、建立時期や建物構造を想定する資料となる。

遺物は出土していない。

#### 第23号掘立柱建物跡 (第287・51図)

桁行3間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡である。BB40、BC40グリッドに位置し、第52号住居跡、第24号掘立柱建物跡、第53・54号溝跡と重複する。

第287図 F区第23号掘立柱建物跡



柱間は桁行2.45m、梁行2.20m、規模は桁行7.35m×梁行4.40m、面積32.34㎡を測る。桁行は東西に面し、軸方位をN-29°-Wに向ける。柱掘形は円形を呈し、平面規模は小さいが、深い。柱痕の有無や柱掘形の充填状況は不明である。

遺物は図示し得ないが、須恵器甕片、土師器甕・坏片が出土している。

#### 第24号掘立柱建物跡 (第288・51図)

2間×2間の総柱掘立柱建物跡である。BC40グリッドに位置し、重複する第52号住居跡、第53号溝跡よりも新しい。

柱間2.10m、規模4.20m×4.20m、面積17.64㎡を

測り、軸方位をN-30°-Wに向ける。

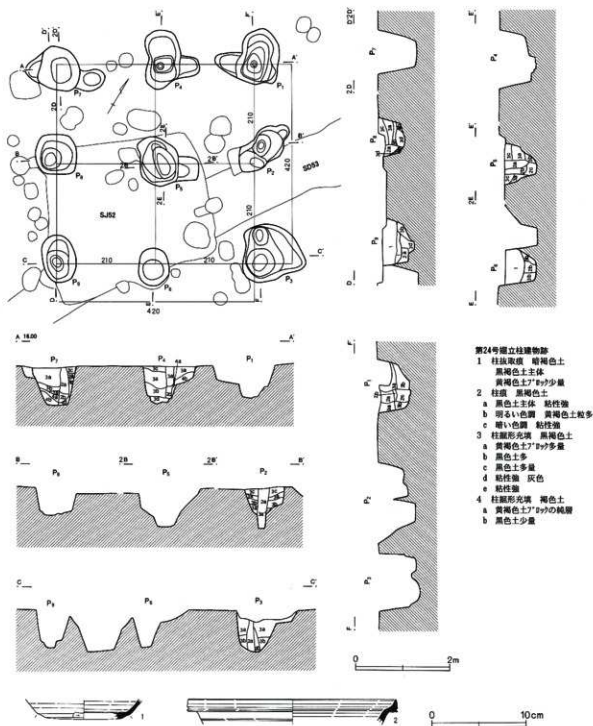
中間柱には張り出す傾向が窺われる。P6・P9は柱が抜き取られ、P1・P2・P3・P4・P7・P8に柱痕が確認されている。柱掘形は垂なものが多いものの方形を基本とし、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土と、下層には黄褐色土ブロックを主体とする褐色土が充填されている。中央の東柱の柱掘形も平面規模・深さとも遜色ない。

遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

#### 第25号掘立柱建物跡 (第289・51図)

桁行3間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡である。

第288図 F区第24号掘立柱建物跡・出土遺物



F区第24号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第288図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(22.0)	(1.9)	(8.2)	W針	A	灰	5	P 4 南比企産
2	環	(22.0)	(2.7)		針	A	灰	5	P 9 南比企産

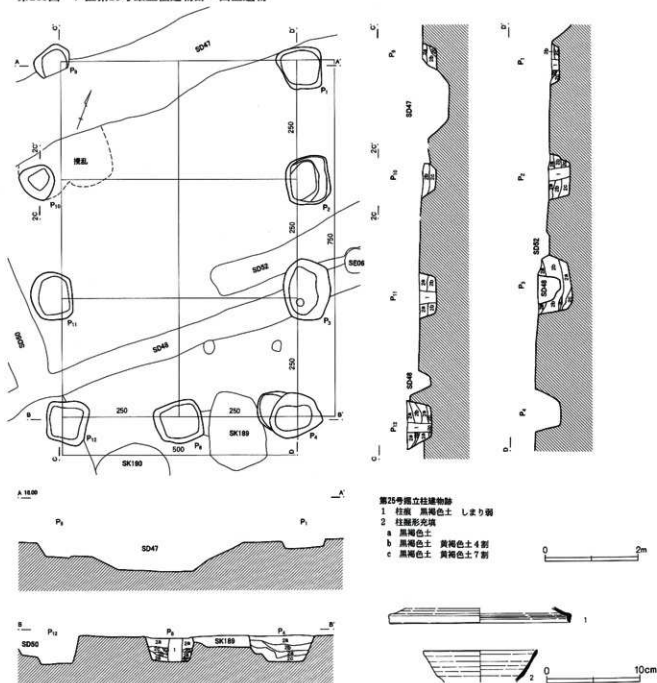
BB39・40、BC39・40グリッドに位置し、第189号土塊、第47・48・52号溝跡と重複する。

柱間は桁行2.50m、梁行2.50m、規模は桁行7.50

m×梁行5.00m、面積37.50m<sup>2</sup>を測る。桁行は東西に面し、軸方位をN-12.5°-Wに向ける。

桁行中間柱は張り出し、P10は柱筋からはずれてい

第289図 F区第25号掘立柱建物跡・出土遺物



F区第25号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第289図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	壺	(19.1)	(1.6)		W針	A	灰	5	P 8 南比企産
2	環	(11.9)	(3.4)		B針	A	灰	5	P 12 南比企産

る。柱底がP 2・P 8・P 11・P 12で確認されている。柱形は方形を基本とし、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が充填されている。

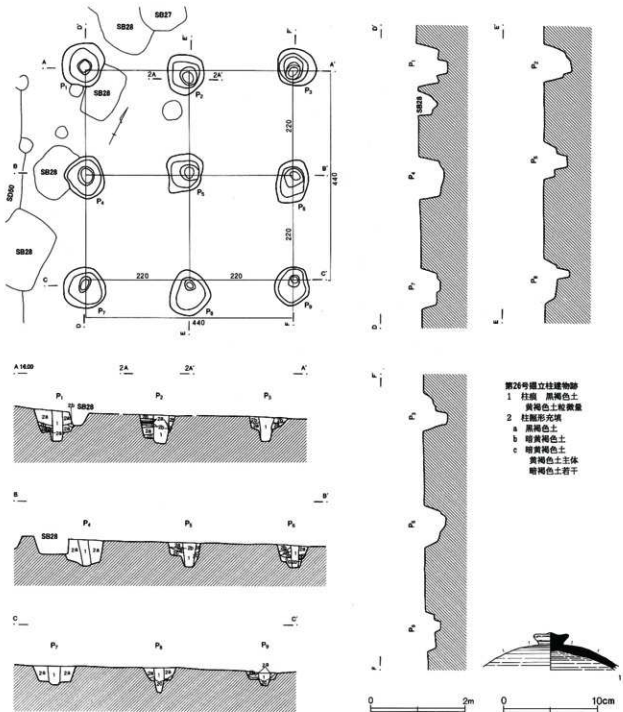
遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第28号掘立柱建物跡 (第290・48・51図)

2間×2間の縦柱掘立柱建物跡である。BA38・39、BB38・39グリッドに位置し、第28号掘立柱建物跡と重複する。

柱間2.20m、規模4.40m×4.40m、面積19.36㎡を

第290図 F区第26号掘立柱建物跡・出土遺物



F区第26号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第290図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(3.9)		WB針	A	灰	15	南北企産

測り、軸方位をN-27.5°-Wに向ける。

すべての柱穴から柱痕が確認されている。柱掘形は隅丸方形を呈し、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が飯糰状に丁寧に衝き固められて充填されている。

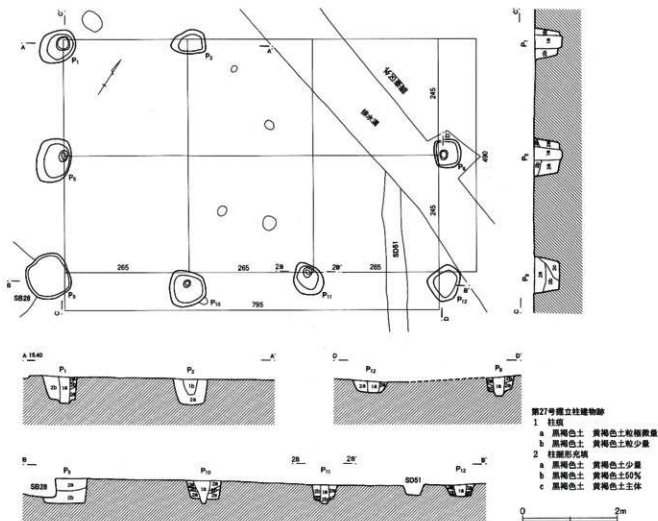
遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片、中世陶器片が出土している。

第27号掘立柱建物跡 (第291・48・51図)

桁行3間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡で、AZ38・

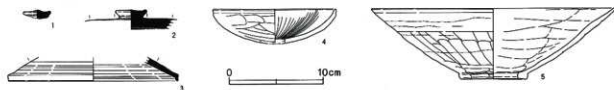


第291図 F区第27号掘立柱建物跡



第292図 F区第28号掘立柱建物跡出土遺物

第28号掘立柱建物跡



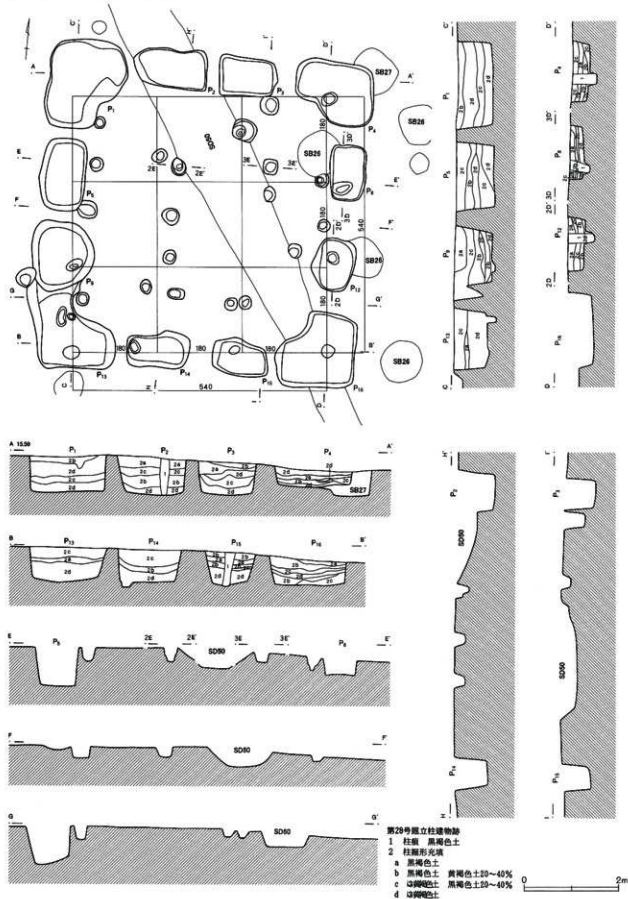
F区第28号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第292図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(0.9)		WB	A	灰	5	P 3 秋間 Or 湖西産
2	蓋		(2.0)		W	A	灰	5	未野産?
3	蓋	(17.9)	(2.5)		W針	A	灰	5	南比企産
4	環	(12.8)	(3.6)		BR	B	橙	15	P 15
5	甌	(25.8)	(7.4)	(6.9)	WBR	B	橙	20	P 2

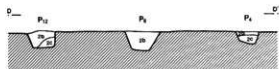
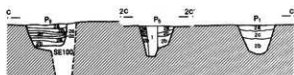
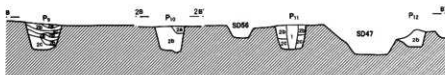
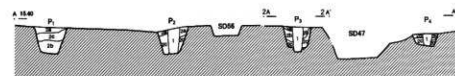
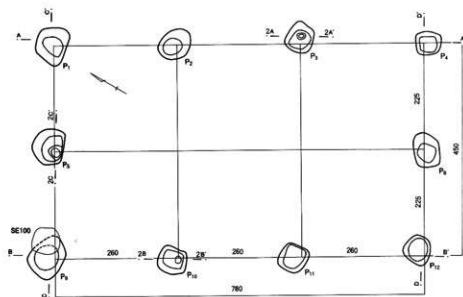
39、BA38・39グリッドに位置する。北東コーナー付近は調査区外にあり、P 3・P 4は検出されていない。第51号溝跡と重複する。

柱間は桁行2.65m、梁行2.45m、規模は桁行7.95m×梁行4.90m、面積38.955m<sup>2</sup>を測る。桁行は南北に面し、軸方位をN-35°-Wに向ける。

第293图 F区第28号直立柱建物跡



第294図 F区第29号孤立柱建物跡



第29号孤立柱建物跡

1 柱礎 黒褐色土

2 柱礎形充填(版築状)

a 黒褐色土 しまり面

b 黒褐色土 しまり面 黄褐色土粒・7% $\times$ 30%

c 黄褐色土 黄褐色土主体 黒褐色土少量



柱筋は、桁行・梁行とも中間柱が張り出す。柱底はP9を除くすべての柱穴から確認されている。柱掘形は方形を基本とし、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が充填されている。

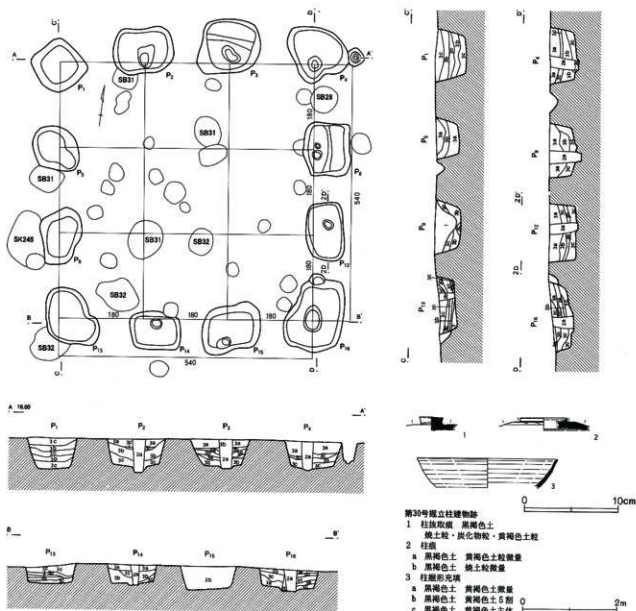
遺物は図示し得ないが、土師器破片が出土している。

第28号孤立柱建物跡(第292・293・48図)

3間×3間の側柱孤立柱建物跡である。BA38、BB38グリッドに位置し、重複する第26・27号孤立柱建物跡、第50号溝跡よりも新しい。

柱間1.80m、規模5.40m×5.40m、面積29.16m<sup>2</sup>を測り、軸方位をN-6°-Wに向ける。

第295図 F区第30号掘立柱建物跡・出土遺物



F区第30号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第295図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(1.4)		WB針	A	灰白	5	P9 南比企産
2	蓋		(1.3)		WBR針	B	浅黄	5	P4 南比企産
3	坏	(14.9)	(3.1)		WB針	A	灰	5	P9 南比企産

柱筋は中間柱が張り出す。柱痕がP2・P4・P8・P12・P15で確認されている。柱掘形は方形を基本とし、隅柱はL字形を呈している。黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が版築状に丁寧に衝き固められて充填されている。

第28号掘立柱建物跡内には、柱穴に付随するよう

な位置にビットが検出されている。側柱の規画には一致せず、またビット群独自の規則性も捉えきれない。しかし側柱柱穴に寄り添っていたり、側柱企画の線上もしくは交差付近に位置しており、東立て床を支えた東柱の可能性はある。

遺物は図示したほかに、須臾器甕・坏片、土師器甕・

坏片が出土している。

### 第29号掘立柱建物跡 (第294・48図)

桁行3間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡である。BB37・38、BC37・38グリッドに位置し、重複する第100号井戸跡よりも新しい。

柱間は桁行2.60m、梁行2.25m、規模は桁行7.80m×梁行4.50m、面積35.10㎡を測る。桁行は南北に面し、軸方位をN-31°-Wに向ける。

柱痕がP2・P3・P4・P5・P11で確認されている。柱掘形は方形で、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が版築状に丁寧に衝き固められて充填されている。

遺物は図示し得ないが、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片、土鏝が出土している。

### 第30号掘立柱建物跡 (第295・48図)

3間×3間の側柱掘立柱建物跡である。BB37・38グリッドに位置し、第28・31・32号掘立柱建物跡、第245号土壇と重複する。

柱間1.80m、規模5.40m×5.40m、面積29.16㎡を測り、軸方位をN-7.5°-Wに向ける。

柱筋は、中間柱が張り出している。P9は柱が抜き取られ、P2・P3・P4・P8・P12・P14・P16には柱痕が残存している。柱掘形は方形で、南辺隅柱はL字形を呈している。黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が版築状に丁寧に衝き固められて充填されている。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・長頸壺・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

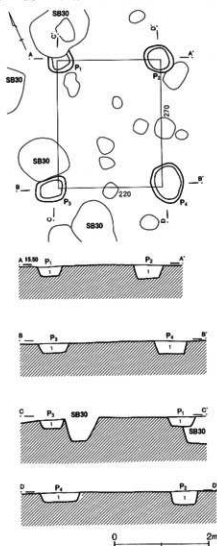
### 第31号掘立柱建物跡 (第296・48図)

BB37グリッドに位置し、第30号掘立柱建物跡と重複する。1間×1間の建物跡で、規模東西2.20m、南北2.70m、面積5.94㎡を測り、軸方位をN-25°-Eに向ける。

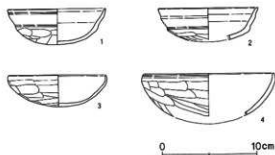
柱掘形は円形で、浅い。黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が充填されている。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・

第296図 F区第31号掘立柱建物跡・出土遺物



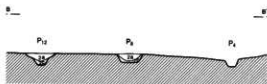
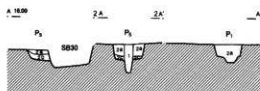
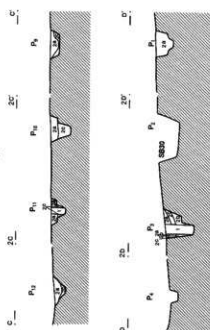
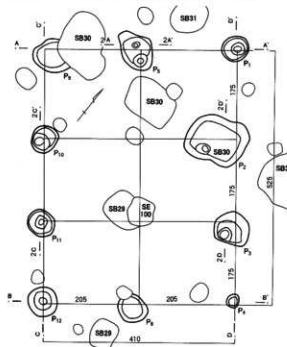
第31号掘立柱建物跡  
1 黒褐色土 2 黄褐色土粒・ブロック30%  
柱筋跡柱穴?



F区第31号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第296図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成色	調色	残存率	備考
1	坏	(10.2)	3.8		WBR	C	にんべい赤褐	70	P2
2	坏	(10.4)	(3.4)		WBR	C	暗褐	30	P2
3	坏	10.2	3.4		WB	B	にんべい黄橙	90	P2
4	坏	(13.7)	(3.5)		WB	B	橙	30	P2

第297図 F区第32号掘立柱建物跡・出土遺物



第32号掘立柱建物跡

- 1 柱根 黒褐色土
- 2 柱根部充填
- a 黒褐色土 黒褐色土主体
- b 黒褐色土 黄褐色土20~40%
- c 黄褐色土 黄褐色土主体 黒褐色土少量



F区第32号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第297図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋	(13.8)	(1.3)		WB	B	灰黄	5	P 5 木野産
2	環	(10.1)	(0.9)		WBR片	B	灰黄	10	P 8 木野産 底部全面ヘラ

F区第32号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第298図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(1.4)		WB針	A	灰	5	Na10 南比企産
2	蓋	(18.0)	(3.5)		WB針	A	灰	5	P 1 南比企産
3	蓋	(17.9)	(2.2)		WB針	A	灰	10	P12 南比企産
4	環	(11.6)	3.4	(8.0)	WB	A	灰白	10	Na 4 産地不明
5	環	(12.2)	(3.4)		WB針	A	灰	5	P 8 南比企産
6	環	(2.4)	(6.7)		WB針	A	灰	20	P 9 南比企産 底部周辺ヘラ 火燵痕 底部内面擦痕
7	円面硯	5.9	15.0		WB針	B	灰	60	P12 SX01Na39-43 SD66 BE41Gr 南比企産 孔5
8	環	(10.8)	(3.7)		WB	B	橙	30	P 4

環片が出土している。

第32号掘立柱建物跡 (第297・48図)

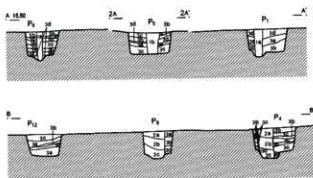
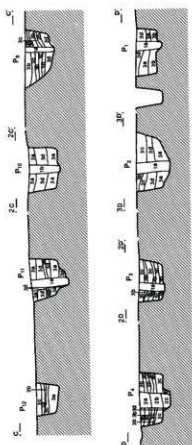
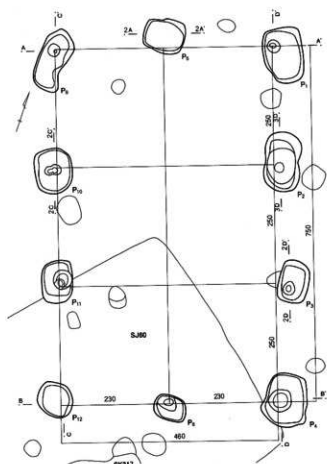
桁行3間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡である。

BB37・38、BC37・38グリッドに位置し、第29・30号

掘立柱建物跡、第100号井戸跡と重複する。

柱間は桁行1.75m、梁行2.05m、規模は桁行5.25

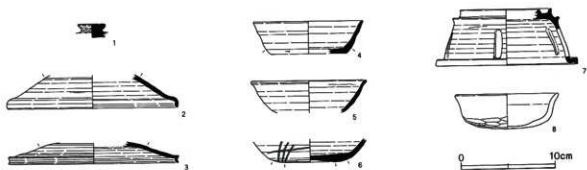
第298图 F区第33号孤立柱建物跡・出土遺物



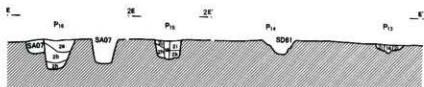
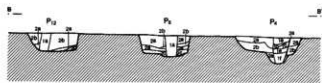
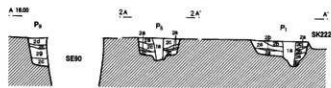
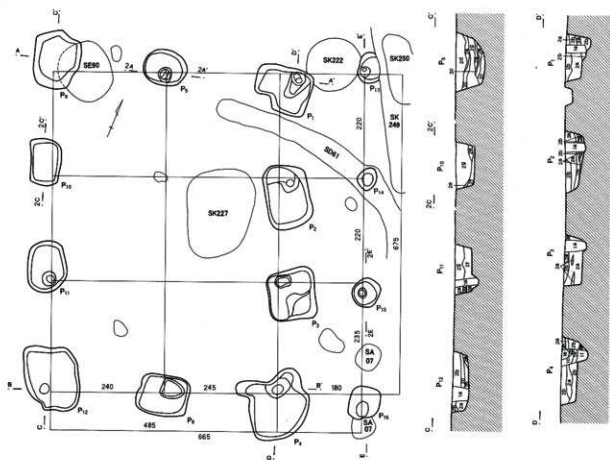
0 2m

第33号孤立柱建物跡

- 1 柱底
  - a 暗褐色土 黄褐色土粒(2mm)・焼土粒若干
  - b 黑褐色土 黄褐色土粒(2~5mm)少
- 2 柱底少?
  - a 黑褐色土 黄褐色土粒・焼土粒(2mm)若干
  - b 黑褐色土 黄褐色土粒(5mm)少
  - c 暗褐色土 黄褐色土粒(2~5mm)若干
  - d 黑褐色土 黄褐色土粒(5~20mm)少
  - e 暗褐色土 黄褐色土粒(2~5mm)少
- 3 柱底形充填
  - a 暗褐色土 黄褐色土片少 焼土粒若干
  - b 黑褐色土 黄褐色土片少 烧土粒
  - c 黑褐色土 黄褐色土片少 烧土粒
  - d 暗褐色土 黄褐色土主体 黑褐色土片少



第299图 F区第34号掘立柱建物跡



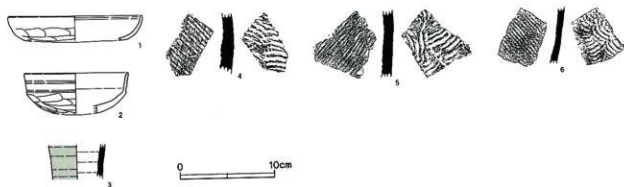
第34号掘立柱建物跡

- 1 柱痕
  - a 黒褐色土 黒褐色土主体 粘性強
  - b 黒褐色土 黄褐色土アツク少量
  - c 黒褐色土 黒褐色土主体
  - d 黒褐色土 粘性・暗色味中強
  - e 黒褐色土 粘性・暗色味強
  - f 黒褐色土 粘性・暗色味より強
- 2 柱断面形状
  - a 暗褐色土 黒褐色土+黄褐色土  
黄褐色土跡少量
  - b 黒褐色土 黄褐色土アツク少
  - c 黒褐色土 黄褐色土アツク少
  - d 黒褐色土 粘性・暗色味中強
  - e 黒褐色土 黄褐色土アツク少  
粘性・暗色味強
  - f 黒褐色土 粘性・暗色味より強  
黄褐色土アツク少
  - g 黒褐色土 黄褐色土アツク少  
黄褐色土主体
  - h 暗褐色土 黄褐色土主体  
黒褐色土少
  - i 暗褐色土 黄褐色土主体

0 2m



第300図 F区第34号掘立柱建物跡出土遺物



F区第34号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第300図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(14.1)	(2.6)		WBR	B	橙	10	P 5
2	坏	(11.0)	(4.3)		WB	B	暗褐	20	P 8
3	長頸壺		(3.7)		B	A	灰	5	P 2 湖西産? 自然軸付着
4	甕				WB	A	灰		P 9 末野産
5	甕				WB	B	灰		P 9 末野産
6	甕				WB	A	灰白		P 12 末野産

第301図 F区第35号掘立柱建物跡出土遺物



F区第35号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第301図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	高台付坏		(0.9)	(7.0)	W針	A	灰	5	南比企産
2	坏	14.2	3.6	7.2	BR	A	橙	60	P 3 油芯
3	甕	(33.0)	(1.7)		W	A	灰		P 13 湖西産? 自然軸付着
4	甕				WBR	B	におい黄橙		P 1 末野産
5	甕				WB	A	灰		P 3 末野産

m×梁行4.10m、面積21.525m<sup>2</sup>を測る。桁行は東西に面し、軸方位をN-39°-Wに向ける。

柱痕がP 3・P 5・P 11で確認されている。柱掘形は円形を基本とし、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が充填されている。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

### 第33号掘立柱建物跡 (第298・48・49図)

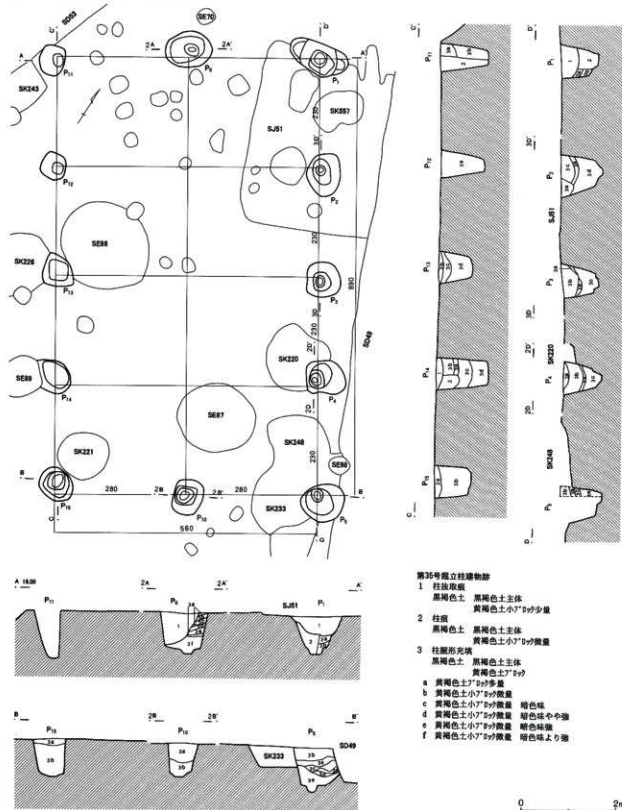
桁行3間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡である。BC36、BD36グリッドに位置し、第60号住居跡と重複する。

柱間は桁行2.50m、梁行2.30m、規模は桁行7.50m×梁行4.60m、面積34.50m<sup>2</sup>を測る。桁行は東西に面し、軸方位をN-19°-Wに向ける。

柱筋は、桁行・梁行とも中間柱が張り出す。柱痕がP 1・P 2・P 3・P 5・P 9・P 10・P 11で確認されている。またP 4には他の柱穴とは様相が異なる柱痕状の堆積がみられる。柱掘形は方形で、隅柱はL字形を呈している。黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が版築状に丁寧に衝き固められて充填されている。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片、P 3から馬歯が出土している。

第302図 F区第35号掘立柱建物跡



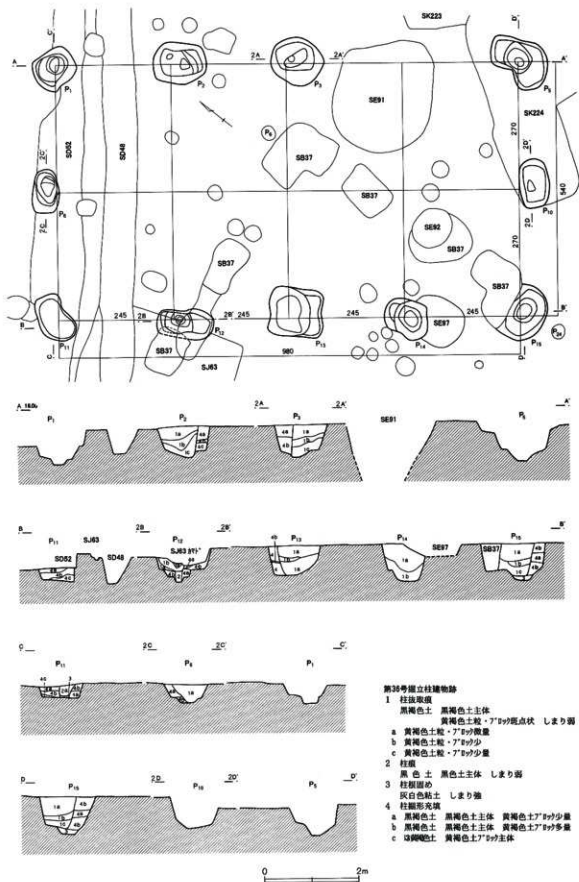
第34号掘立柱建物跡 (第299・300・51・52図)

庇が付設された側柱掘立柱建物跡で、身舎は桁行3間×梁行2間の規模である。BD40・41、BE40・41グ

リッドに位置し、第7号棚跡、第222・227・249号土塼、第90号井戸跡、第61号溝跡と重複する。

身舎の柱間は桁行2.20m-2.20m-2.35m、梁行

第303图 F区第36号掘立柱建物跡



第36号掘立柱建物跡

1 柱状基礎

黒褐色土 黒褐色土主体  
黄褐色土粒・アツツ斑点状 しまり面

a 黄褐色土粒・アツツ微量

b 黄褐色土粒・アツツ少量

c 黄褐色土粒・アツツ多量

2 柱壁

黒色土 黒色土主体 しまり面

3 柱頭面

灰白色粘土 しまり面

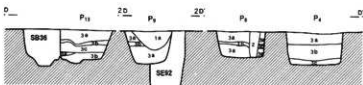
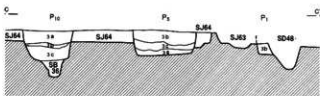
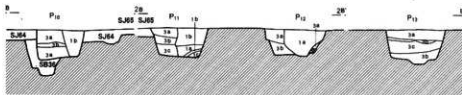
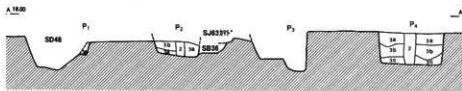
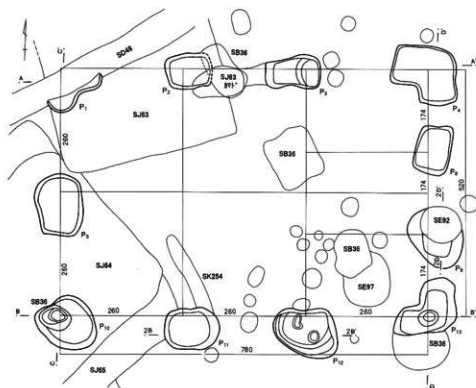
4 柱頭形充填

a 黒褐色土 黒褐色土主体 黄褐色土アツツ少量

b 黒褐色土 黒褐色土主体 黄褐色土アツツ多量

c 黄褐色土 黄褐色土アツツ主体

第304図 F区第37号掘立柱建物跡



第37号掘立柱建物跡

1 柱抜取際の人為的境層

黒褐色土 黄褐色土粒・アト多量  
焼土粒・炭化物粒程少  
a→b→c 黄褐色土量増加

2 柱底

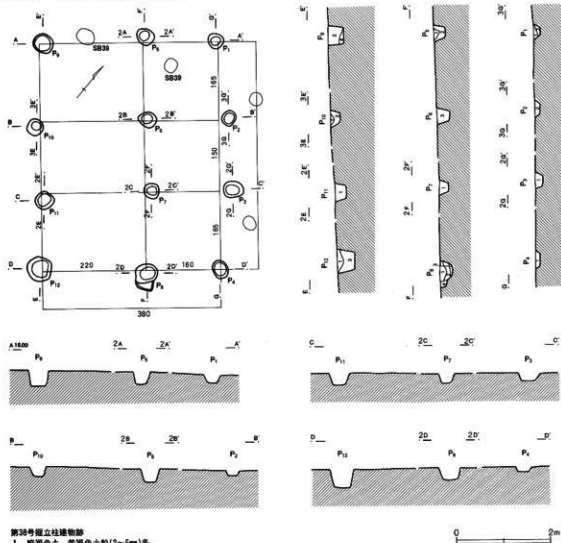
黒色土 黒色土主体 掘入物皆無

3 柱底形充填

黒褐色土 黄褐色土アト多量  
焼土粒・炭化物粒程少  
a→b→c 黄褐色土量増加



第305図 F区第38号掘立柱建物跡



第38号掘立柱建物跡

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒(2~5mm)多
- 2 砂質粘土 黄褐色土多 炭化物少
- 3 暗褐色土 黄褐色土アト(5~30mm)少
- 4 砂質粘土 粘性強 黄褐色土多

2.40m—2.45m、規模は桁行6.75m×梁行4.85m、面積32.7375㎡を測る。桁行は東西に面し、軸方位をN—22.5°—Wに向ける。東面の桁間に庇が付設され、身舎と庇の柱間は1.80m、庇までを含めた規模は桁行6.75m×梁行6.65m、面積44.8875㎡となる。

身舎はP1・P2・P3・P4・P5・P8・P11・P12に柱痕が認められ、P4では複雑に分層される。柱掘形は方形で、P1・P9の隅柱はL字形を呈している。黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が飯築状に丁寧に衝き固められて充填されている。

庇はP13・P15に柱痕が確認されている。柱掘形は円形で、比較的浅い。黄褐色土粒・ブロックを含む黒

褐色土が充填されている。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

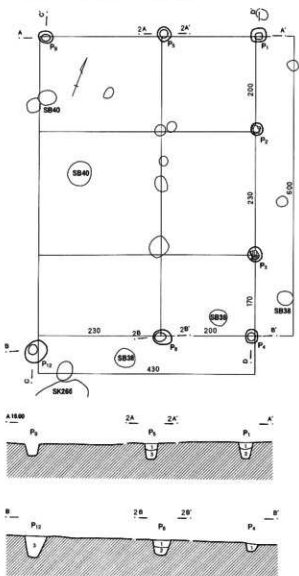
第35号掘立柱建物跡 (第301・302・51図)

桁行4間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡である。BC40・41、BD40・41グリッドに位置し、第51号住居跡、第220・221・226・233・248・557号土塊、第70・87・88・89号井戸跡、第49・53号溝跡と重複する。

柱間は桁行2.30m、梁行2.80m、規模は桁行8.90m×梁行5.60m、面積49.84㎡を測る。桁行は東西に面し、軸方位をN—32°—Wに向ける。

柱は抜き取られ、P1・P6・P14に抜き取り痕が

第306図 F区第39号掘立柱建物跡



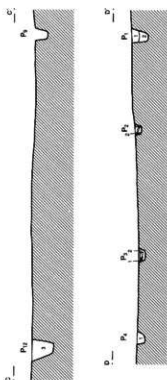
確認されている。P1・P11・P14には柱痕が残存している。柱掘形は方形で、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が版築状に丁寧に銜き固められて充填されている。またP3・P13は焼土塊が混入している。

遺物は図示したほかに、須恵器甕片、土師器甕・鉢・坏片が出土している。

**第36号掘立柱建物跡** (第303・48・49・51図)

桁行4間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡である。BC38、BD38・39グリッドに位置し、第63号住居跡、第37号掘立柱建物跡、第224号土壇、第91号井戸跡、第48・52号溝跡と重複する。

柱間は桁行2.45m、梁行2.70m、規模は桁行9.80



**第39号掘立柱建物跡**

- 1 黒褐色土 柱取痕の人為的準備  
黄褐色土が厚(5~10mm)多
  - 2 黒褐色土 柱掘形充填 黄褐色土が厚(10~30mm)多
  - 3 暗褐色土 柱掘形充填 黄褐色土粒(2~5mm)若干
- 1~3層間に柱根石(緑泥片岩)が出土



m×梁行5.40m、面積52.92㎡を測る。桁行は南北に面し、軸方位をN-39°-Wに向ける。

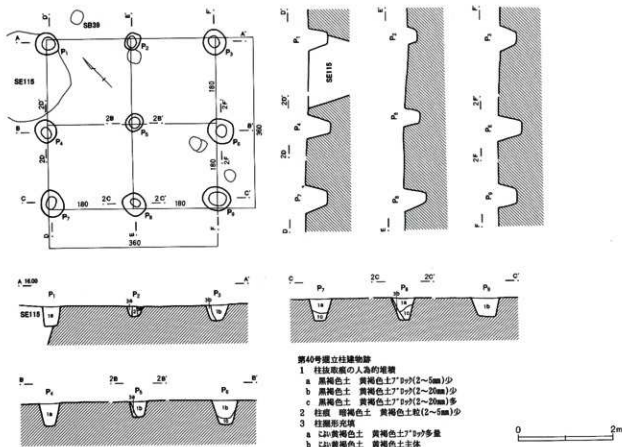
柱は抜き取られ、P2・P3・P6・P12・P13・P14・P15に抜き取り痕が確認されている。P11・P12には柱痕が残存している。柱掘形は方形で、隅柱はL字形を呈している。黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が充填されている。

遺物は図示し得ないが、須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

**第37号掘立柱建物跡** (第304・49図)

BD38グリッドに位置し、第63・64・65号住居跡、第36号掘立柱建物跡、第254号土壇、第92・97号井戸跡、

第307図 F区第40号掘立柱建物跡



第48号溝跡と重複する。第63・64号住居跡、第36号掘立柱建物跡との新旧関係は第36号掘立柱建物跡が最も古く、第63号住居跡→第64号住居跡と続き、第37号掘立柱建物跡が最も新しい。

桁行が南北に面し、軸方位をN-4°-Wに向ける側柱掘立柱建物跡である。桁行3間、梁行は西面2間、東面3間である。柱間は桁行2.60m、梁行西面2.60m、梁行東面1.74m、規模は桁行7.80m×梁行5.20m、面積40.56㎡を測る。

P9・P10・P11・P12は柱が抜き取られ、P2・P4・P8には柱痕が確認されている。柱掘形は方形で、隅柱はL字形を呈している。黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が充墳されている。

遺物は図示し得ないが、須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第38号掘立柱建物跡 (第305・63図)

桁行3間×梁行2間の総柱掘立柱建物跡である。

BH50・51、BI50・51グリッドに位置し、第39号掘立柱建物跡と重複する。

柱間は桁行1.65m-1.50m-1.65m、梁行2.20m-1.60m、規模は桁行4.80m×梁行3.80m、面積18.24㎡を測る。桁行は東西に面し、軸方位をN-40.5°-Wに向ける。

柱並びは桁行・梁行の中間柱が張り出し、東柱は東にズレている。柱掘形は円形で、平面規模が小さく、浅い。黄褐色土粒・ブロックを含む暗褐色土が充墳されている。

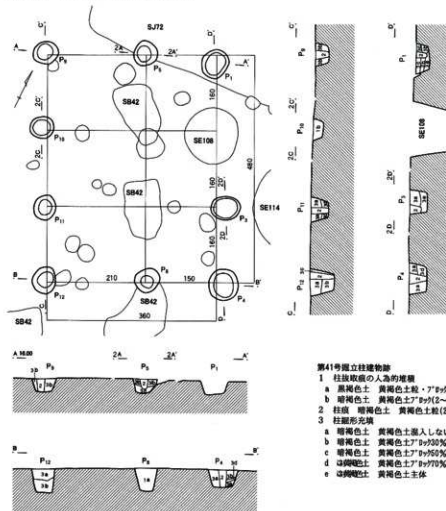
遺物は出土していない。

第39号掘立柱建物跡 (第306・63図)

桁行3間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡である。BG50、BH50グリッドに位置し、第38・40号掘立柱建物跡と重複する。

柱間は桁行2.00m-2.30m-1.70m、梁行2.30m-2.00m、規模は桁行6.00m×梁行4.30m、面積

第308図 F区第41号掘立柱建物跡



第41号掘立柱建物跡

- 1 柱状取組の人為的埋層
  - a 黒褐色土・黄褐色土粒・アモブ(2~10mm)少
  - b 黒褐色土・黄褐色土アモブ(2~5mm)少
- 2 柱座 黒褐色土・黄褐色土粒(2~5mm)少
- 3 柱間形充填
  - a 黒褐色土 黄褐色土混入しない
  - b 黒褐色土 黄褐色土70%程度
  - c 黒褐色土 黄褐色土70~90%
  - d 黒褐色土 黄褐色土70~75%
  - e 黒褐色土 黄褐色土主体

25.80㎡を測る。桁行は東西に面し、軸方位をN-21°-Wに向ける。西辺桁行中間柱のP10・P11は検出されていない。

柱は抜き取られているが、東辺桁行中間柱のP2・P3では柱根に敷いた緑泥片岩が確認されている。柱掘形は円形で、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が充填されている。

遺物は出土していない。

#### 第40号掘立柱建物跡 (第307・63図)

2間×2間の総柱掘立柱建物跡である。BH49-50グリッドに位置し、第39号掘立柱建物跡、第115号井戸跡と重複する。

柱間1.80m、規模3.60m×3.60m、面積12.96㎡を測り、軸方位をN-44.5°-Eに向ける。

柱は抜き取られているが、P2には柱痕が残存して

いる。柱掘形は円形で、黄褐色土粒・ブロックが充填されている。

遺物は出土していない。

#### 第41号掘立柱建物跡 (第308・63図)

桁行3間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡である。BG49、BH49グリッドに位置し、第72号住居跡、第42号掘立柱建物跡、第108号井戸跡と重複する。

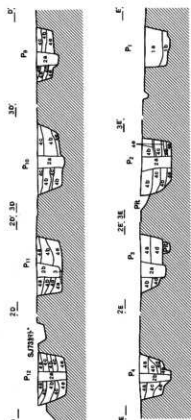
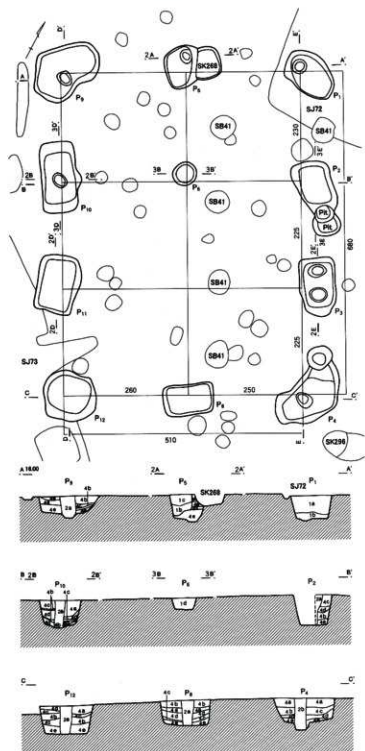
柱間は桁行1.60m、梁行2.10m-1.50m、規模は桁行4.80m×梁行3.60m、面積17.28㎡を測る。桁行は東西に面し、軸方位をN-25.5°-Wに向ける。

P8・P10は柱が抜き取られ、P1・P3・P4・P5・P9・P11・P12には柱痕が残存している。柱掘形は隅丸方形で、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が互層に充填されている。

遺物は図示したほかに、土師器破片が出土している。



第309図 F区第42号掘立柱建物跡



第42号掘立柱建物跡

- 1 柱抜き取組の人為的堆積
  - a 黒褐色土 黄褐色土ア70% (20~50mm) 少
  - b 黒褐色土 黄褐色土粒 (2~5mm)
  - c 黒褐色土 黄土粒少
  - d 暗褐色土 黒色土+黄褐色土多量
- 2 柱痕
  - a 黒褐色土 黄褐色土粒 (2~8mm) 若干  
黄土・炭化物若干
  - b 暗褐色土 黄褐色土ア70% (2~10mm) 多
- 3 柱痕囲め 暗灰色粘土 黄褐色土粒若干
- 4 柱痕部充填
  - a 暗褐色土主体 黄褐色土がほとんどない
  - b 黄褐色土ア70%混入
  - c 黄褐色土ア70%混入
  - d 黄褐色土ア70%混入
  - e 黄褐色土ア70%多量混入

第42号掘立柱建物跡 (第309・63図)

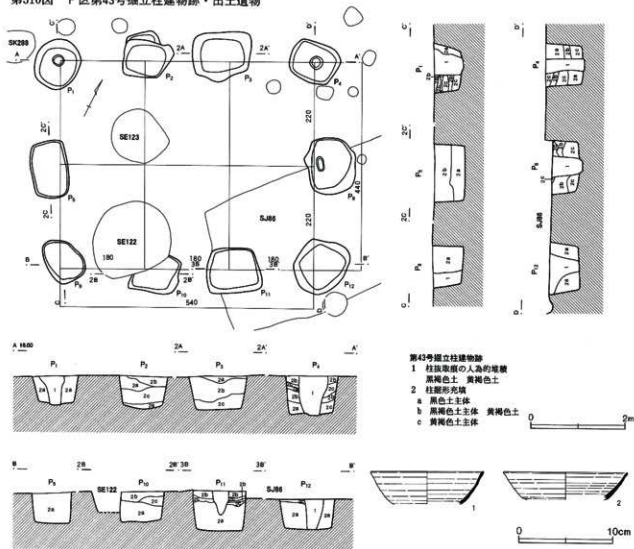
桁行3間×梁行2間の掘立柱建物跡で、BG49、BH48・49グリッドに位置し、第72・73号住居跡、第41号掘立柱建物跡、第268号土壇と重複する。

柱間は桁行2.30m—2.25m—2.25m、梁行2.60m

—2.50m、規模は桁行6.80m×梁行5.10m、面積34.68㎡を測る。桁行は東西に面し、軸方位をN—27.5°—Wに向ける。

P1・P5は柱が抜き取られ、P2・P3・P4・P8・P9・P10・P11・P12には柱痕が残存している。柱

第310図 F区第43号掘立柱建物跡・出土遺物



F区第43号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第310図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	環	(11.9)	(3.5)		W針	B	灰	5	南比企産
2	環	(13.0)	(2.9)	(6.9)	W針	B	灰	5	P12 南比企産

掘形は方形で、隅柱はL字形を呈している。黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が互層に充填されている。またP11では柱根固めに褐灰色粘土が敷かれている。

東柱はP6の1本で、P7は検出されていない。柱掘形は円形で、浅い。柱は抜き取られている。

遺物は図示し得ないが、須恵器破片、土師器甕・坏片が出土している。

第43号掘立柱建物跡 (第310・59図)

桁行3間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡である。BG47、BH47グリッドに位置し、第86号住居跡、第

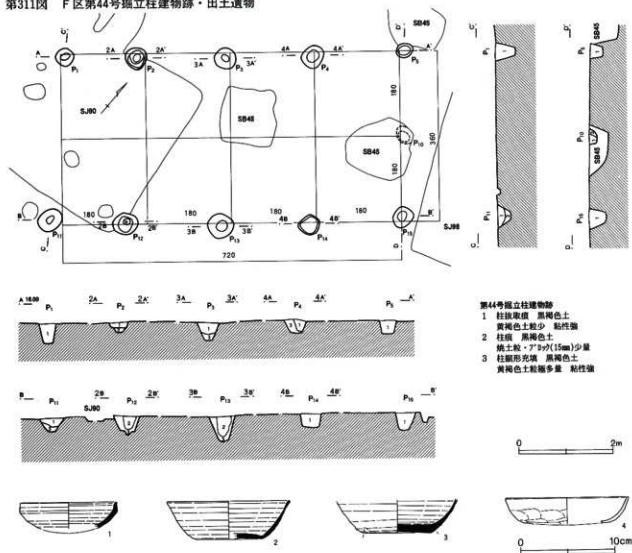
122・123号井戸跡と重複する。

柱間は桁行1.80m、梁行2.20m、規模は桁行5.40m×梁行4.40m、面積23.76㎡を測る。桁行は南北に面し、軸方位をN-26.5°-Wに向ける。

柱は抜き取られ、人為的に埋め戻されている。柱掘形は方形で、隅柱は斜めに位置取られている。黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が互層に充填されている。

遺物は図示したほかに、須恵器破片、土師器甕・坏片が出土している。

第311図 F区第44号掘立柱建物跡・出土遺物



F区第44号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第311図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(10.2)	(2.7)		B	B	灰	5	P 3 秋間産?
2	坏	(12.8)	4.0	(7.0)	W針	A	灰	30	P 3 南北企産 底部糸切難し
3	坏	(13.5)	(3.5)	(7.2)	WB針	A	灰	50	P 3 南北企産 底部全面ヘラ
4	坏	(12.9)	(2.8)		B	B	暗褐	10	P 3

第44号掘立柱建物跡(第311・59図)

桁行4間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡である。BI45・46、BJ45・46グリッドに位置し、第90号住居跡、第45号掘立柱建物跡と重複する。

柱間は桁行1.80m、梁行1.80m、規模は桁行7.20m×梁行3.60m、面積25.92㎡を測る。桁行は南北に面し、軸方位をN-41.5°-Wに向ける。梁行西辺の中間柱は検出されていない。

基本的に柱は抜き取られているが、P12・P13には

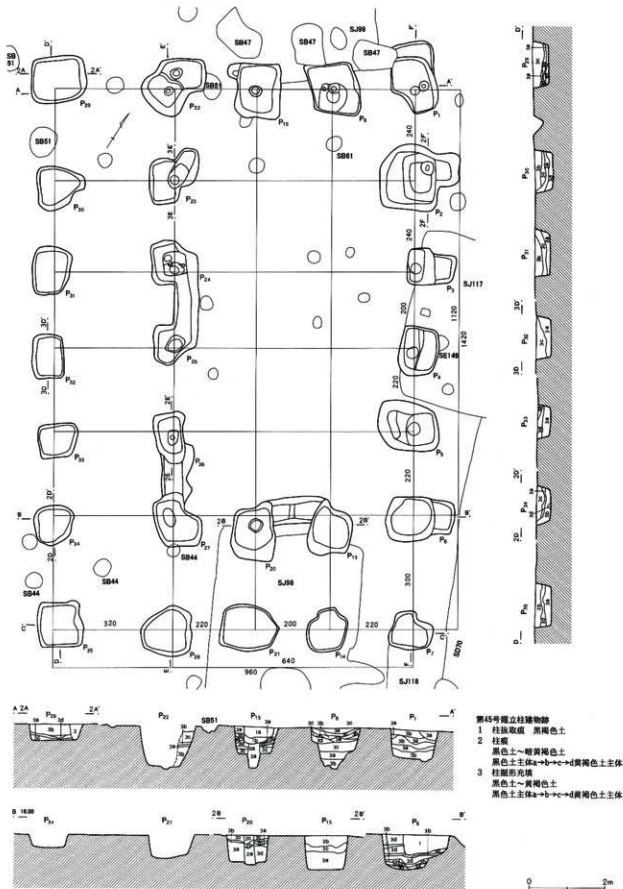
柱痕が残存している。柱掘形は、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が充填されている。

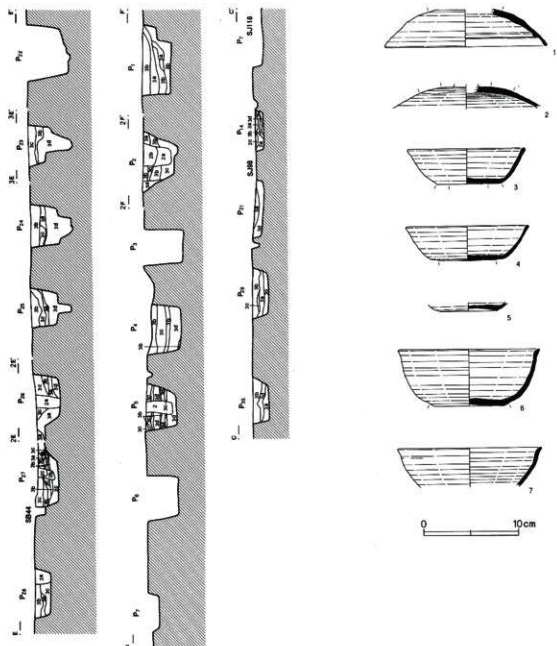
遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第45号掘立柱建物跡(第312・55・59図)

2面に庇が付設され、身舎は桁行5間×梁行3間の側柱掘立柱建物跡である。BH45・46、BI45・46グリッドに位置し、第98・99・117・118号住居跡、第44・47・51・61号掘立柱建物跡、第149号井戸跡、第70号溝跡と

第312图 F区第45号孤立柱建物跡・出土遺物





F区第45号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第312図)

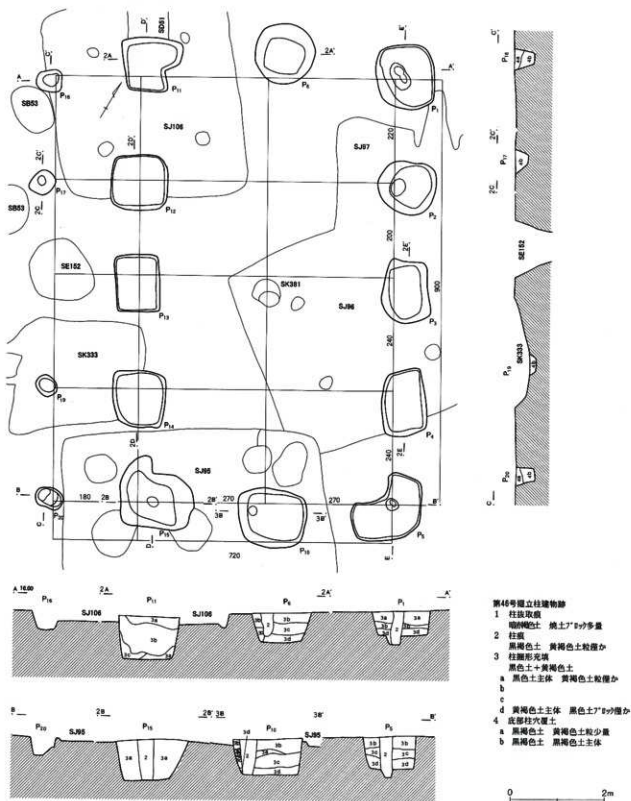
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	壺	(17.0)	(4.0)		WBR	C	黄灰褐	20	P13・20 末野産?
2	壺		(2.6)		WB針	A	灰白	10	P3 南比企産
3	環	13.1	3.7	6.8	WB針	B	灰	60	P2 南比企産 底部周辺ヘラ
4	環	(12.8)	3.6	(6.1)	W針	B	灰	50	P24 Na3 南比企産 底部全面ヘラ
5	環		(0.9)	6.0	WBR針	A	灰白	20	P21 南比企産 底部全面ヘラ
6	碗	(14.8)	6.0	(7.4)	WB針	B	灰	40	P24 南比企産 底部全面ヘラ
7	碗	(15.0)	(4.1)		WR針	B	灰	10	P3 Na3 南比企産

重複する。

身舎の柱間は桁行2.40m—2.40m—2.00m—2.20m—2.20m、梁行2.20m—2.00m—2.20m、規模は桁

行11.20m×梁行6.40m、面積71.68㎡を測る。桁行は東西に面し、軸方位をN-30.5°-Wに向ける。底は桁行西面と梁行南面に設置され、柱間は3.20m、3.00m

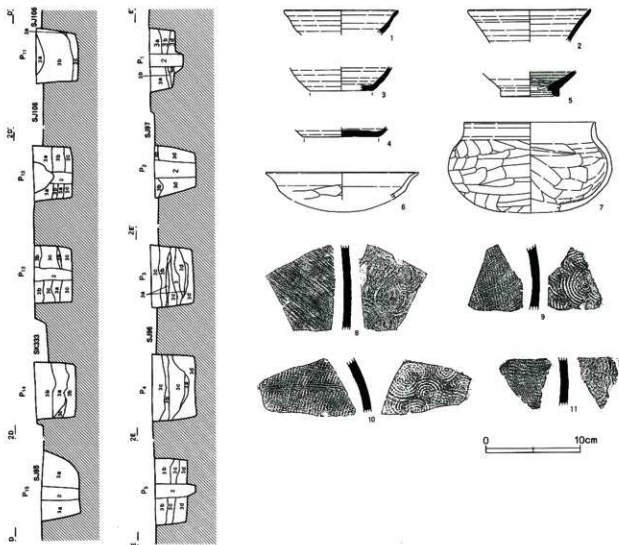
第313図 F区第46号掘立柱建物跡・出土遺物



の距離である。庇まで含めた建物規模は桁行14.20m×梁行9.60m、面積136.32㎡である。

身舎の柱はP6が抜き取られ、P2・P5・P20・

P26・P27には柱痕が確認されている。また柱か抜き取られたP15には、柱痕の一部が残存している。柱掘形は方形で、隅柱はL字形を呈している。黄褐色土粒・



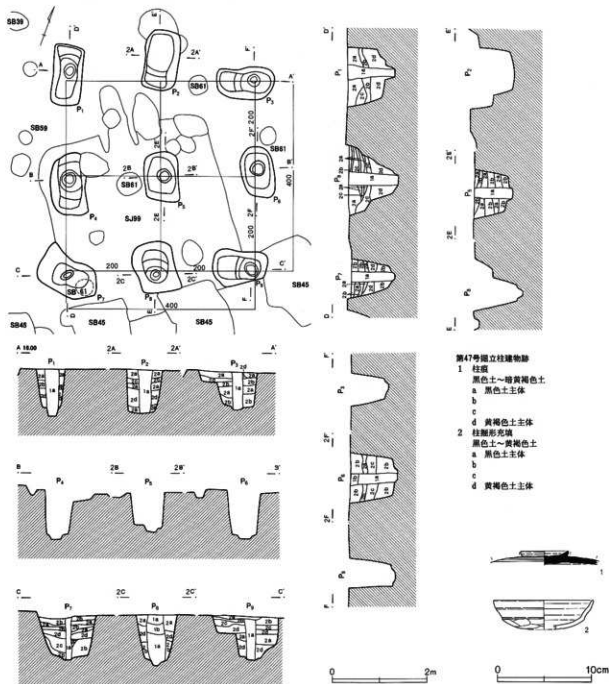
F区第46号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第313図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	環	(12.0)	(2.6)		WB 針	B	灰	5	P 4 南比企産
2	環	(12.8)	(3.4)		WB 針	B	灰	5	P 3 南比企産
3	環		(2.5)	(6.7)	WB 針	C	灰白	10	P 1 南比企産
4	環		(1.0)	(7.9)	WB 針	A	灰	5	P 11 南比企産 底部全面へラ 底部内面擦痕
5	長頸壺		(2.6)	(6.0)	B	B	灰	5	P 13 秋田産？ 内面自然軸付着 刺突状
6	盤	(16.0)	(3.0)		WR	B	橙	5	P 3
7	小型壺	(13.8)	(9.5)		WR	B	橙	40	P 18
8	甕				WB	A	灰		P 13 末野産
9	甕				WBR	B	灰黄		P 4 末野産
10	甕				WBR	B	灰黄		P 10 末野産
11	甕				WB	C	灰白		P 10 末野産

ブロックを含む黒褐色土が版築状に丁寧に衝き固められて充填されている。庇が付設されている桁行 P 24-P 25、P 26-P 27、梁行 P 13-P 20は浅い溝で連結され、柱掘形の充填と同時に埋め戻されている。

庇の柱は P 28・P 29に柱痕が確認されている。柱掘形は方形で、深さは身舎に比べて浅い。身舎と同様に黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が版築状に丁寧に衝き固められて充填されているが、単位は粗い。

第314図 F区第47号掘立柱建物跡・出土遺物



F区第47号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第314図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(1.4)		WB 針	A	灰	20	P 5 南比倉産
2	環	(10.3)		(3.1)	WB	B	にふい黄橙	10	P 9

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

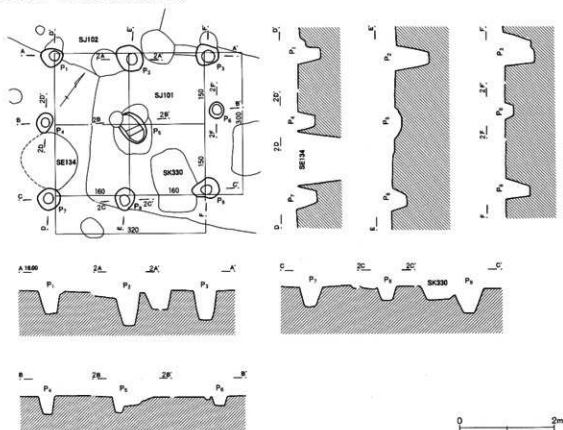
第46号掘立柱建物跡(第313・55図)

1面に庇が付設され、身舎は桁行4間×梁行2間の

側柱掘立柱建物跡である。BI44・45、BJ44・45グリッドに位置し、第95・96・97・106号住居跡、第53号掘立柱建物跡、第333・381号土壇、第152号井戸跡、第51号溝跡と重複する。



第315図 F区第48号掘立柱建物跡



身舎の柱間は桁行2.20m—2.00m—2.40m—2.40m、梁行2.70m、規模は桁行9.00m×梁行5.40m、面積48.60㎡を測る。桁行は東西に面し、軸方位をN—31°—Wに向ける。底は柱間1.80mで桁行西面に設置され、底を含めた規模は桁行9.00m×梁行7.20m、面積64.80㎡である。

身舎の柱はP1・P2・P5・P6・P10・P13・P15に柱痕が確認され、P12は抜き取られているが、柱痕の一部が残存している。柱掘形は方形で、隅柱はL字形を呈している。黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が版築状に丁寧に衝き固められて充填されている。

底の柱のなかに、柱痕が確認されているものはない。柱掘形は方形で、規模は小さく、浅い。黒褐色土が充填されている。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・環片、土師器甕・環片が出土している。

#### 第47号掘立柱建物跡 (第314・55図)

2間×2間の総柱掘立柱建物跡である。BG45・46、

BH45・46グリッドに位置し、第99号住居跡、第45・59・61号掘立柱建物跡と重複する。

柱間2.00m、規模4.00m×4.00m、面積16.00㎡を測り、軸方位をN—20.5°—Wに向ける。

柱痕はすべての柱穴から確認されている。柱掘形は方形で、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が版築状に丁寧に衝き固められて充填されている。束柱の平面規模・深さは側柱と遜色がなく、倉庫としての用途が推測される。

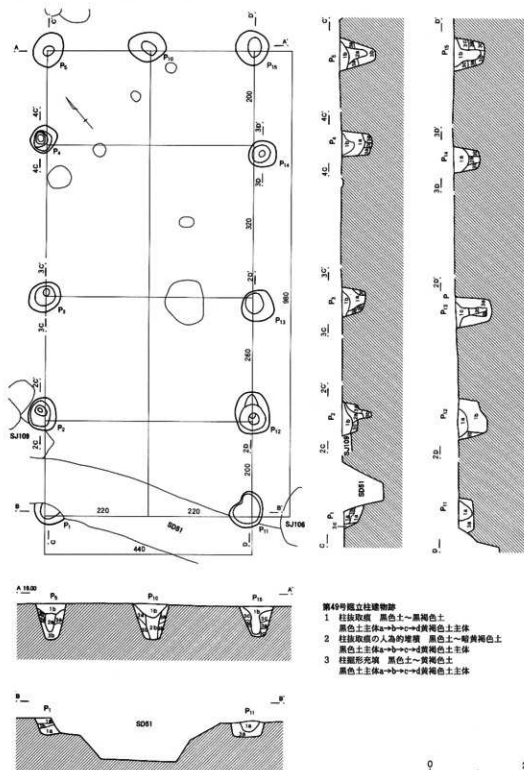
遺物は図示したほかに、須恵器甕片、土師器甕・環片が出土している。

#### 第48号掘立柱建物跡 (第315・55図)

2間×2間の総柱掘立柱建物跡である。BG45グリッドに位置し、第101・102号住居跡、第48号掘立柱建物跡、第330号土壇、第134号井戸跡と重複する。

柱間は東西1.60m、南北1.50m、規模は東西3.20m×南北3.00m、面積9.60㎡を測る。軸方位をN—38°—Wに向ける。

第316図 F区第49号掘立柱建物跡



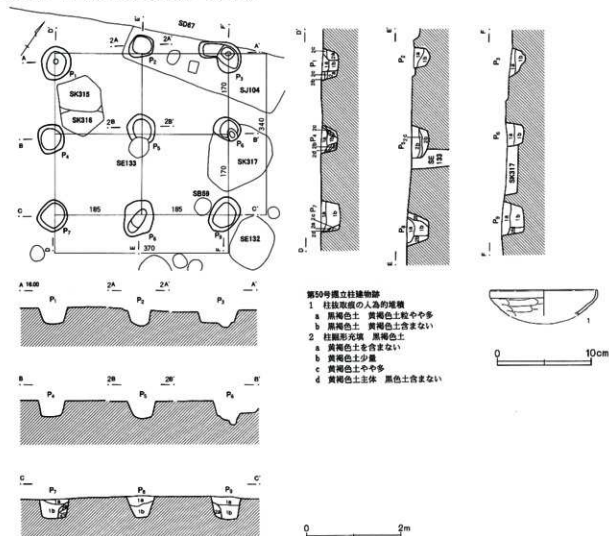
柱痕の有無や柱掘形の充填状況は不明である。柱掘形は不整形形で、隅柱に比べ、中間柱は浅い。また東柱はいずれの柱穴よりも際だって浅く、東立て床貼りの建物跡が想定される。

遺物は出土していない。

第49号掘立柱建物跡 (第316・55図)

桁行4間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡である。  
BH44・45、BI44グリッドに位置し、第109号住居跡、

第317図 F区第50号掘立柱建物跡・出土遺物



- 第50号掘立柱建物跡  
 1 柱掘取痕の人為的堆積  
 a 黒褐色土 黄褐色土粒中や多  
 b 黒褐色土 黄褐色土含まない  
 2 柱掘形充填 黒褐色土  
 a 黄褐色土を含まない  
 b 黄褐色土少量  
 c 黄褐色土中や多  
 d 黄褐色土主体 黒色土含まない

F区第50号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第317図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	環	(11.2)	(2.7)		WB	B	橙	5	P 3

第51号溝跡と重複する。

柱間は桁行2.00m—3.20m—2.60m—2.00m、梁行2.20m、規模は桁行9.80m×梁行4.40m、面積43.12㎡を測る。桁行は東西に面し、軸方位をN—41.5°—Eに向ける。

柱はすべて抜き取られている。覆土2層は柱の抜き取り痕を人為的に埋め戻した土層と解釈したが、状況的には柱痕の残欠とも捉えられる。しかし堆積している黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土は覆土1層と近似し、他の掘立柱建物跡で確認されている柱痕部の堆積土とは異なる。

柱掘形は隅丸方形で、隅柱のP11はL字形を呈している。黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が充填されている。

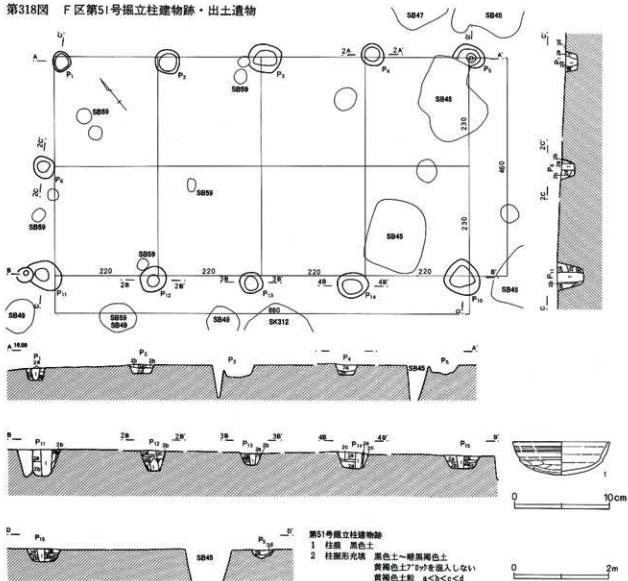
遺物は図示し得ないが、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第50号掘立柱建物跡(第317・55図)

2間×2間の総柱掘立柱建物跡である。BG44、BH44グリッドに位置し、第104号住居跡、第315・316・317号土壇、第133号井戸跡、第67号溝跡と重複する。

柱間は東西1.85m、南北1.70m、規模は東西3.70m×南北3.40m、面積12.58㎡を測る。軸方位をN—

第318図 F区第51号掘立柱建物跡・出土遺物



F区第51号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第318図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(10.2)	3.5		BR	B	橙	50	P 1

35.5°-Wに向ける。

柱は抜き取られ、人為的に埋め戻されている。柱掘形は方形もしくは円形で、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が充填されている。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片が出土している。

#### 第51号掘立柱建物跡 (第318・55図)

桁行4間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡である。BG44・45、BH44・45グリッドに位置し、第45・47・49・59号掘立柱建物跡と重複する。

柱間は桁行2.20m、梁行2.30m、規模は桁行8.80m×梁行4.60m、面積40.48㎡を測る。桁行は南北に面し、軸方位をN-39°-Eに向ける。

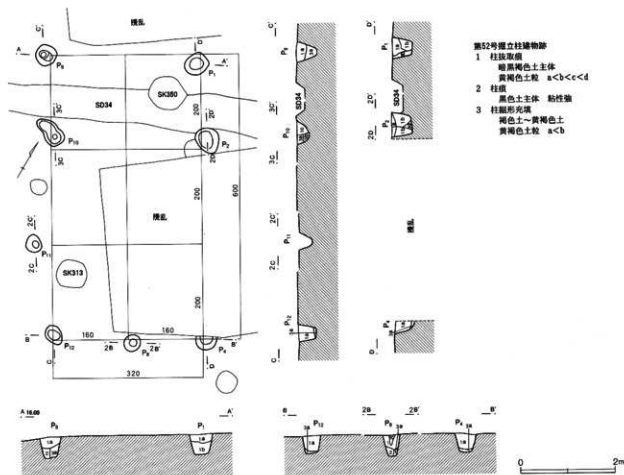
柱痕がP1・P2・P6・P11・P12・P13・P14・P15に確認されている。柱掘形は円形もしくは方形で、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が充填されている。

遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

#### 第52号掘立柱建物跡 (第319・54・55図)

桁行3間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡である。

第319図 F区第52号掘立柱建物跡



BF44・45グリッドに位置し、第313・350号土塊、第34号溝跡と重複する。P3・P4は攪乱されている。

柱間は桁行2.00m、梁行1.60m、規模は桁行6.00m×梁行3.20m、面積19.20㎡を測る。桁行は東西に面し、軸方位をN-30°-Wに向ける。

柱は抜き取られ、P8・P9に柱痕の一部が残存している。柱掘形は円形で、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が充填されている。

遺物は図示し得ないが、須恵器長頸壺片、土師器斐・坏片が出土している。

#### 第53号掘立柱建物跡 (第320・55図)

桁行3間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡である。BI43・44、BJ43・44グリッドに位置し、第106号住居跡、第46号掘立柱建物跡と重複する。

柱間は桁行2.20m、梁行2.40m、規模は桁行6.60m×梁行4.80m、面積31.68㎡を測る。桁行は東西に面

し、軸方位をN-20.5°-Wに向ける。

柱痕はP5・P10を除くすべての柱穴から確認されている。柱掘形は方形で、隅柱は斜めに配されている。黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が丁寧に突き固められて充填されている。なかでも黄褐色土を主体とする2dは殆どみられず、2b・2cが意図的に用いられている。

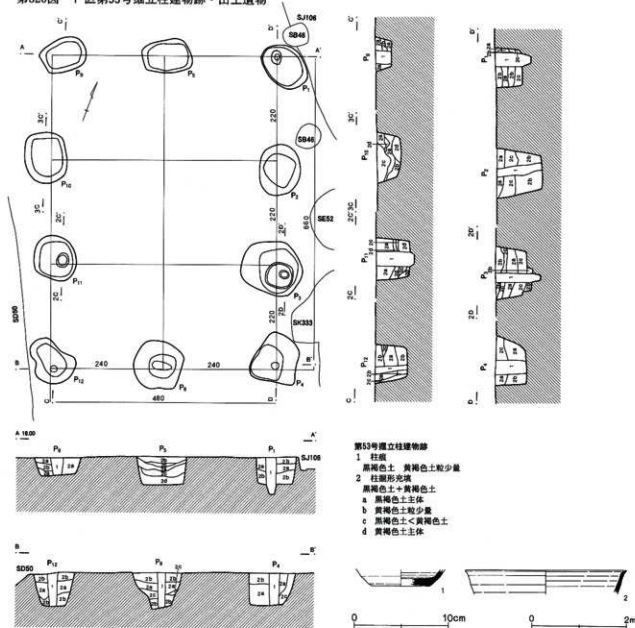
遺物は図示したほかに、須恵器斐・坏片、土師器斐・坏片が出土している。

#### 第54号掘立柱建物跡 (第321・55図)

桁行2間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡である。BI43・44、BH44グリッドに位置し、第345号土塊、第51号溝跡と重複する。

柱間は桁行2.70m-2.50m、梁行1.90m、規模は桁行5.20m×梁行3.80m、面積19.76㎡を測る。桁行は東西に面し、軸方位をN-14.5°-Wに向ける。東辺の

第320図 F区第53号掘立柱建物跡・出土遺物



F区第53号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第320図)

番号	器種	口径	器高	底径	粘土	焼成	色調	残存率	備考
1	環	(1.7)	(5.9)		W針	A	橙	10	P3 南北企産 底部糸切離し
2	椀	(16.9)	(2.5)		W針	A	灰	5	P10 南北企産

桁行中間柱のP2は検出されていない。

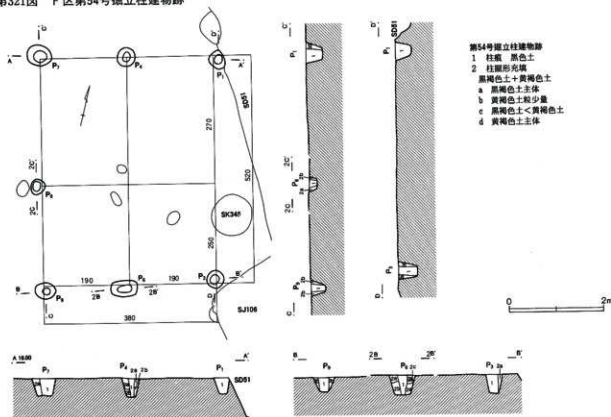
柱痕はすべての柱穴から確認されている。柱痕形は円形で、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が充填されている。

遺物は図示し得ないが、須恵器環片、土師器甕・環片が出土している。

第55号掘立柱建物跡 (第322・55図)

桁行4間×梁行2間の総柱掘立柱建物跡である。BF42・43グリッドに位置し、第111・115号住居跡、第57号掘立柱建物跡、第49・51・68・69号溝跡と重複する。柱間は桁行2.25m、梁行2.10m—1.70m、規模は桁行9.00m×梁行3.80m、面積34.20㎡を測る。桁行は南北に面し、軸方位をN-13°-Eに向ける。

第321図 F区第54号掘立柱建物跡



第54号掘立柱建物跡

- 1 柱窟 黒色土
- 2 柱窟跡 黒褐色土+黄褐色土
- a 黄褐色土主体
- b 黄褐色土粒少量
- c 黒褐色土<黄褐色土
- d 黄褐色土主体

0 2m

柱は基本的に抜き取られているが、P2・P3には柱痕の一部が残存している。柱掘形は円形で、黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が充填されている。

遺物は図示し得ないが、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

#### 第56号掘立柱建物跡 (第323・54図)

2間×2間の総柱掘立柱建物跡と想定される。BE42・43グリッドに位置し、第358号土塊、第26・74号溝跡と重複する。

柱間は東西2.25m、南北1.85m、規模は東西4.50m×南北3.70m、面積16.65㎡と推測される。軸方位をN-24.5°-Wに向ける。

柱は抜き取られている。柱掘形は円形である。

遺物は出土していない。

#### 第57号掘立柱建物跡 (第324・55図)

桁行が南北に面する側柱掘立柱建物跡で、BF42・43、BG42グリッドに位置する。第111号住居跡、第55号掘立柱建物跡、第51・69号溝跡と重複する。

梁行2間、桁行の柱間は北辺2間、南辺3間の例外

的な柱間数で、桁行南辺を正面と意識した建物構造と推測される。柱間は桁行北辺2.80m-2.00m、南辺1.60m、梁行2.20m-2.60m、規模は桁行4.80m×梁行4.80m、面積23.04㎡を測る。軸方位をN-20°-Wに向ける。

柱は抜き取られ、人為的に埋め戻されている。柱掘形は方形で、隅柱はL字形を呈している。黄褐色土粒・ブロックを含む黒褐色土が充填されている。

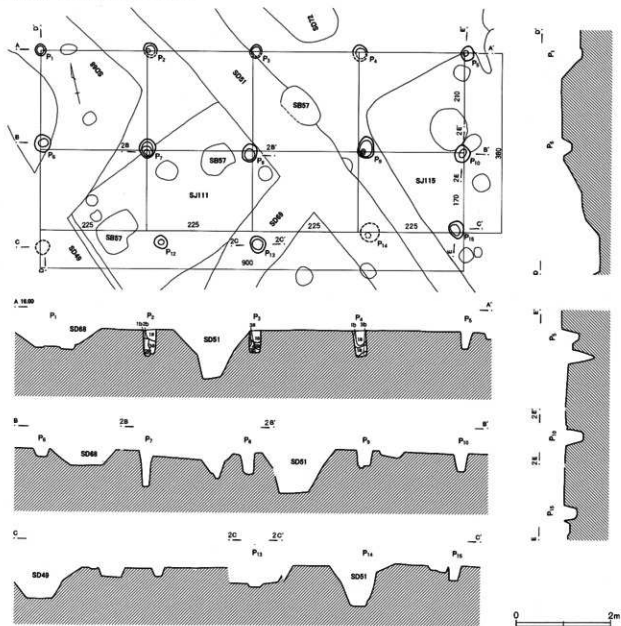
遺物は図示し得ないが、土師器甕・坏片が出土している。

#### 第58号掘立柱建物跡 (第325・60図)

2間×2間の総柱掘立柱建物跡である。BO47・48、BP48グリッドに位置し、掘立柱建物跡群より離れた箇所に1棟のみ建立されている。第96・97号溝跡と重複し、大地震に伴う液状化現象による噴砂が南北に縦断している。

柱間は南北2.70m-2.90m、東西2.30m、規模は南北5.60m×東西4.60m、面積25.76㎡を測る。軸方位をN-41.5°-Wに向ける。

第322図 F区第55号掘立柱建物跡



第55号掘立柱建物跡

- 1 柱取組 黒色土・黄土・P7・炭化物
  - a 黄褐色土・小ア7少
  - b 黄褐色土・小ア7多
- 2 柱組 黒色土・黄褐色土・小ア7少
  - a 黄褐色土少
  - b 黄褐色土多
- 3 柱断面充填
  - a 黒色土主体・黄褐色土
  - b 黄褐色土主体

柱痕がP2・P3・P6・P8・P9に確認されている。柱掘形は方形もしくは円形で、隅柱はL字形を呈している。灰黄色土ブロックを含む暗灰黄色土が版築状に丁寧に衝き固められて充填されている。東柱は平面規模が小さく、浅く、東立て床貼りの上屋構造が想定

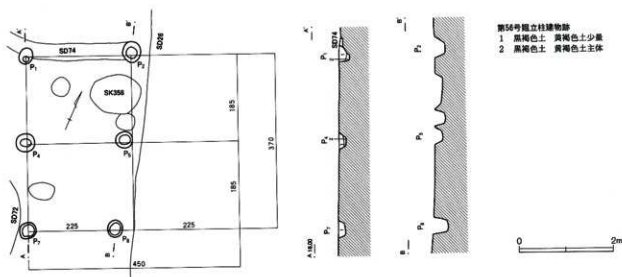
される。遺物は出土していない。

第59号掘立柱建物跡 (第326・55図)

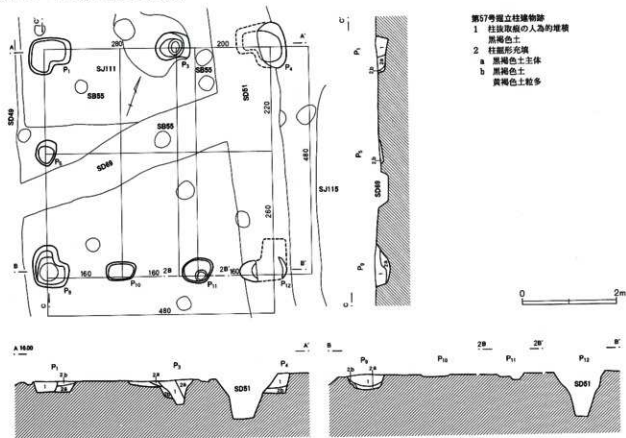
桁行4間×梁行2間の総柱掘立柱建物跡である。BG44・45、BH44グリッドに位置し、第101号住居跡、第48・49・50・51・54・69号掘立柱建物跡、第318・



第323図 F区第56号掘立柱建物跡



第324図 F区第57号掘立柱建物跡



331号土塊、第132・134・136号井戸跡と重複する。

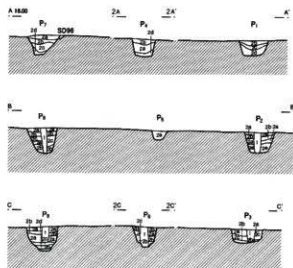
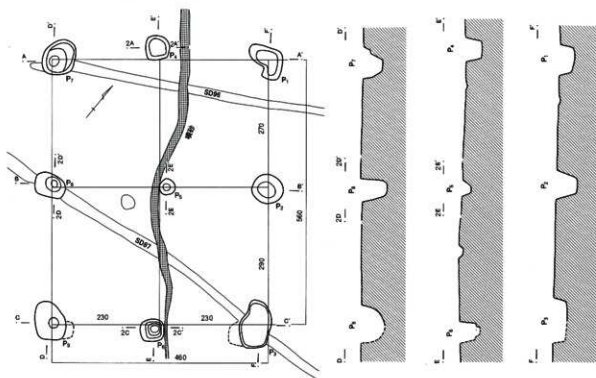
桁行は南北に面し、軸方位をN-27°-Wに向ける。  
桁行の柱間は北辺、南辺で異なり、北辺は1.40m-2.40m-2.40m-2.05m、南辺は1.40m-1.80m-2.60m-2.45mである。梁行の柱間は2.40m、規模

は桁行8.25m×梁行4.80m、面積39.60㎡を測る。

柱掘形は円形で、規模が小さく浅い。柱は抜き取られているものと想定されるが、柱掘形の充填状況と同様に不明である。

遺物は出土していない。

第325図 F区第58号掘立柱建物跡



第58号掘立柱建物跡

- 1 柱根 黄灰色土 灰黄色土ア70% (2~8mm) 少
- 2 柱脚形充填
  - a 黄灰色土 灰黄色土ア70%含まない
  - b 黄灰色土 灰黄色土ア70%90%
  - c 暗褐色土 灰黄色土ア70%50%
  - d 暗褐色土 灰黄色土ア70%70%
  - e 灰黄色土 灰黄色土ア70%多量



第60号掘立柱建物跡 (第327・55図)

桁行2間×梁行2間の総柱掘立柱建物跡である。BF43・44、BG43・44グリッドに位置し、第113・115号住居跡、第74号掘立柱建物跡、第354・355・356・357号土壌、第142号井戸跡、第34・69号溝跡と重複する。

柱間は桁行3.70m—3.50m、梁行1.70m、規模は桁行7.20m×梁行3.40m、面積24.48㎡を測る。桁行は東西に面し、軸方位をN—25.5°—Wに向ける。

柱痕の有無や柱据形の充填状況は不明である。柱据形は円形で、規模は小さい。桁行中間柱は浅い。

遺物は出土していない。

第61号掘立柱建物跡 (第328・59図)

桁行2間×梁行2間の側柱掘立柱建物跡である。BG45・46、BH45・46グリッドに位置し、第99号住居跡、第45・47号掘立柱建物跡、第432号土壌と重複する。柱間は桁行2.50m、梁行1.90m、規模は桁行5.00

第326图 F区第59号掘立柱建物跡

